

一 糧食費、被服費及日用品費ハ自辨トス

註 中 少尉、准士官ニ給スル月額六十圓ヲ以テスルモ右諸費ヲ自辨シテ且相當ノ小遣金ヲ利シ得ル見込ナリ

二 英國(加奈陀、豪洲ヲ含ム)和蘭俘虜將校ニ對スル俸給支拂モ本支給方法ニ據ルコトアリ

三 本支給方法ハ相互的トセス帝國ニ於テ一方的ニ實施スヘキコト

四 本支給方法ニ據リ支給スル給與額ハ戰爭終了後千九百十七年陸戰ノ法規慣例ニ因スル條約及俘虜ノ待遇ニ因スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約ニ基キ敵國政府ヨリ償還セラルヘキモノト諒解ス

追テ俘虜タル將將ノ家族ニシテ帝國領土又ハ占領地内ニ居住スル者ニ對スル敵國政府ヨリノ家族渡俸給ノ送金ニ因シテハ便宜ヲ與フル用意アリ

陸軍普通第四八五號昭和十七年六月二十三日

二〇五内

條三普通第一二八號

昭和十七年二月二十日

外 務 次 官

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ金錢收入ニ関スル米國政府ノ提案ニ関スル件

本件ニ関シ今般米國政府ヨリ瑞西國政府ヲ通シ別紙書翰寫ノ如ク申入レ越タルカ右ハ一九二九年俘虜條約第二十三條ニ基キ俘虜將校ノ俸給、支拂方法、為替相場ニ関シ又第二十四條ニ基キ所持金最高額ニ関シ取極ヲ爲サントスルモノト認メラレ當方トシテハ本條約ヲ準用スルモ何等其ノ義務ヲ負ヒ居ラス又内容的ニ見ルモ俘虜俸給及所持金ノ増額ハ我方ニ有利トモ認メラレス旁々先方申入ハ之ヲ拒絕スル方宜敷キヤニ認メラルル處貴見御回示相成度

瑞西公使二月三日附米翰假譯

四一七

以書翰名上致候既看一月十四日附批翰の。EE. N. / . O. O. 二関シ米國政府ヨリ日本政府宛米國
軍部ニ於ケル基本俸給(但シ住宅料、食費、年功加俸ヲ除ク)ニ付左ノ通通報方米國政府
ニ對シ依頼越シタルヲ以テ茲ニ通報申上候

陸軍大尉	(Army General)	八〇〇〇	半
陸軍中尉	(Lieutenant General)	一〇〇〇〇	
陸軍少將	(Major General)	一〇〇〇〇	
陸軍副少將	(Brigadier General)	六〇〇〇	
陸軍大佐	(Colonel)	四〇〇〇	
陸軍中佐	(Lieutenant Colonel)	三〇〇〇	
陸軍少佐	(Major)	三〇〇〇	
陸軍大尉	(Captain)	二〇〇〇	

陸軍中尉	(First Lieutenant)	二〇〇〇
准士官	(Warrant Officer)	一〇三六
海軍陸戰隊少將	(Marine Corps Major General)	一〇〇〇
海軍副少將	(Brigadier General)	六〇〇〇
海軍大佐	(Colonel)	四〇〇〇
海軍中佐	(Lieutenant Colonel)	三〇〇〇
海軍少佐	(Major)	三〇〇〇
海軍大尉	(Captain Lieutenant)	二〇〇〇
海軍中尉	(First Lieutenant)	二〇〇〇
海軍少尉	(Second Lieutenant)	一五〇〇
海軍一等准尉	(Senior Warrant Officer)	一〇〇〇
海軍准士官	(Warrant Officer)	七六六

六四

沿岸防備

海軍少將 (Coast guard Rear-Admiral) 1.000

海軍大佐 (Captain) 4.000

海軍中佐 (Commander) 3.500

海軍少佐 (Lieutenant Commander) 3.000

海軍大尉 (Lieutenant) 2.400

海軍中尉 (Lieutenant) (junior grade) 2.000

海軍少尉 (Ensign) 1.500

海軍一等准尉 (Chief Warrant Officer) 2.000

海軍准士官 (Warrant Officer) 1.766

本件米國政府ノ通報ハ存虜規定ニ関スル千九百二十九年七月二十九日ノ露府條約(第二十
三條及二十四條)ニ基クモノニ御座候

一〇之内

米國政府トシテハ前記諸條ノ趣旨ニ依リ露西聯邦政府ヲ通ジ帝國政府ト取極ヲナスコトニ
交渉ヲナス用意ヲ有スルモノト被存候

日本政府ニ於テ本件ニ関シ同様協定ヲナス意向ナリヤ御回示相成度茲ニ御依頼旁々本使ハ
閣下ニ向ツテ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬具

存虜發第一三一號

存虜ノ金銭收入ニ関シ米國政府ニ對スル回答ノ件

昭和十七年三月六日

存虜情報局長官 上村 幹 男

外務次官 西 春 茂 殿

條三普通第一三八號ヲ以テ承照首題ノ件ハ貴意見ノ通回答ノ要ナカルヘシ

條三秘合第一四〇七號

昭和十七年九月二十一日

外務次官

俘虜情報局長官殿

俘虜及抑留者ノ勞働賃金ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ今般米國政府ヨリ在京瑞西國公使ヲ通シ書翰ヲ以テ提議アリタルニ付同書翰又文送付ス 右ニ對スル貴見御回示相煩度

本信送付先 陸軍、海軍、内務各次官、俘虜情報局長官

在京瑞西公使八月十二日附書翰譯文

以書翰格上致候取看抑留非戦闘員ノ勞働ニ関スル三月二十四日附批翰ニ引續キ米國政府ハ帝國政府ニ對シ左ノ如ク通告方依頼越シタル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

ノ七外

米國政府ハ俘虜ノ待遇ニ関スル條約第三十四條ニ規定セラレタル手續ニ從ヒ俘虜ノ勞働

イ 其ノ居室ヲ合ム收容所ノ維持又ハ修繕ニ必要ナル

ロ 俘虜ノ安樂又ハ健康ヲ改善又ハ増進ニ關係スル

ハ一 又ハ俘虜各自ノ收容所内ノ經濟ニ關係スル

以外ノ目的ニ使用セララルル場合ニハ、俘虜ニ對シ毎日俘虜ノ給養ノ外ニ藉西貨三法ニ相当スル金額ヲ支拂ハルル様協定スルコトヲ提議ス

有給ノ勞働ヲ希望スル米人抑留非戦闘員ニ對シ帝國政府ハ幾何ノ金額ヲ支拂ハルルヤノ

情報ヲ受クル迄米國政府ハ前項三號ニ記載シタル以外ノ勞働ヲ希望スル抑留非戦闘員ニ

對シ毎日藉西貨三法ヨリ少ナカラサル率ヲ以テ支拂ヒヨ爲スベク且右支拂ハ抑留非戦闘

員ノ給料ノ外トス

本件ニ関スル帝國政府ノ御意嚮御回示依頼旁々本使ハ茲ニ貴大臣ニ對シ深甚ナル敬意ヲ

四三

條三統合第一四〇七號

昭和十七年九月二十一日

俘虜情報局長官殿

外務次官

俘虜及抑留者ノ勞働賃金ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ今般米國政府ヨリ在京瑞西國公使ヲ通シ書翰ヲ以テ提議アリタルニ付同書翰文を送付ス。右ニ對スル貴見御回示相煩度

本信送付先 陸軍 海軍 内務各次官 俘虜情報局長官

在京瑞西公使八月十二日附書翰譯文

以書翰啓上致候取看抑留非戦闘員ノ勞働ニ関スル三月二十四日附批翰ニ引續キ米國政府ハ帝國政府ニ對シ左ノ如ク通告方依頼越シタル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

ノ〇七外

米國政府ハ俘虜ノ待遇ニ関スル條約第三十四條ニ規定セラレタル手續ニ從ヒ俘虜ノ勞働

イ 其ノ居室ヲ合ム收容所ノ維持又ハ修繕ニ必要ナル

ロ 俘虜ノ安樂又ハ健康ヲ改善又ハ増進ニ関係スル

ハ一 又ハ俘虜各自ノ收容所内ノ經濟ニ関係スル

以外ノ目的ニ使用セララルル場合ニハ俘虜ニ對シ毎日俘虜ノ給養ノ外ニ瑞西貨三法ニ相当スル金額ヲ支拂ハルル様協定スルコトヲ提議ス

有給ノ勞働ヲ希望スル米人抑留非戦闘員ニ對シ帝國政府ハ幾何ノ金額ヲ支拂ハルルヤノ情報ヲ受クル迄米國政府ハ前項三號ニ記載シタル以外ノ勞働ヲ希望スル抑留非戦闘員ニ對シ毎日瑞西貨三法ヨリ少ナカラサル率ヲ以テ支拂ヒヲ爲スベク且右支拂ハ抑留非戦闘員ノ給料ノ外トス

本件ニ関スル帝國政府ノ御意嚮御回示依頼旁々本便ハ茲ニ貴大臣ニ對シ深甚ナル敬意ヲ

四三

表シ候

存管第四號ノ三九

存房勞務賃金ニ関スル件通牒

昭和十八年七月二十八日

存房管理部長

北方、東部、中部、西部、朝鮮、各參謀長
関東軍總參謀長

存房ヲ部外勞務ニ服セシメタルトキノ賃金ニ関シ之カ取扱區々ナル向モ有之哉ニ見受ケラ
ルルニ付念ノ爲左記ノ通牒ス

左記

一 部外官廳ノ勞務賃金ハ陸軍部隊ニ於ケル場合ト同様ト不從テ此ノ場合ハ國庫納金ナシ

一〇七四

二 前號以外ノ部外勞務

(一) 基本賃金ハ准士官下士官兵ヲ問ハス一円ニシテ其ノ中准士官ニ在リテハ二十五錢、

下士官ニ在リテハ十五錢、兵ニ在リテハ十錢ヲ夫々本人ニ支給シ殘額即チ准士官ニ在

リテハ七十五錢、下士官ニ在リテハ八十五錢、兵ニ在リテハ九十錢ヲ夫々國庫納金ト

ス

(二) 有技術者ニ對シ基本賃金ト外三十五錢以内ヲ増額シタルトキハ該金額ハ本人ニ支給ス

ルモノトス從テ此ノ際ニ於ケル國庫納金ハ前號ニ於ケル場合ト同額ナリ

ハ例之有技術下士官ニ三十錢ヲ増額シタルトキハ存房使用者ノ納付スル賃金ハ一円

三十分(基本賃金一円ニ増額三十錢ヲ加フ)ニシテ其ノ中四十五錢(基本賃金中

本人ニ支給スヘキ十五錢ニ増額三十錢ヲ加フ)ヲ本人ニ支給シ殘額八十五錢ヲ國

庫納金トシテ納付ス

三 非軍人タル存房ヲ勞務ニ服セシメタルトキ賃金ハ相當階級ノ職員存房ニ準ス但シ

四三三

四三二

敬具

尉官以上相當者ニ在リテハ准士官ニ準スルモノトス

参照第二號

謹啓

本代表ハ存虜ノ給料ヲ外國へ送金スル件ニ関シセニ一ツヨリ書翰ヲ取取申候
致ケ國ニ於テハ存虜達が自己ノ得タル給料中其或部分ヲ家族達へ送金スル事ヲ許可致サレ
居候也ニツ赤十字國際委員會ハ屢々存虜自身 或ハ其家族達ヨリ該問題ニ関スル留置國ノ
便宜実施方法ノ照會ニ接シ居申候
也ニツ赤十字國際委員會ハ右ノ問題ニ関シ日本ニテハ如何ナル所置ヲ採ラレテ居ルカニ付
全部明細ナル報告ヲ要望致居候
也ニツ赤十字委員會ハ特ニ左記ノ諸事ヲ承知致シ度希望仕居候即チ存虜ハ給料ハ幾割ヲ家

一九〇八年

族ニ送金ナシ得ルヤ送金ノ方法及存虜ノ保護者カ送金受領方法ノ希望ヲ明示スル方法等ニ
候本代表ハ貴局ニ於テ該問題ヲ御研究被成下候へハ誠ニ感謝ム至リニ奉存候 敬 具

昭和十八年六月七日

横濱 赤十字國際委員會

駐 日 代 表

存虜情報局 殿

存虜第六號ノ一四

存虜ノ本國送金ニ関スル件

昭和十八年六月十五日

存虜情報局長官

赤十字國際委員會駐日代表殿

六月下日附参照第二號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答ス

一、客年米國政府ヨリ帝國政府ニ對シテ存虜將校ノ捧給金額ヲ支給スルコトナク帝國ニ於テ
 ハ一認ヲ支給シ差額ハ米國ニ於テ家族ニ對シ支給致シ度キレ旨ヲ照會シ来リタルヲ以テ
 米國政府トシテハ之ニ對シ原則トシテ異議ナキ旨ヲ回答シ目下實施ノ細部ニ関シ接衝中
 ナリ從テ本廳策カ實現シタルトキハ存虜ノ米國宛送金問題ハ解決スヘシ
 二、現在ニ於テハ前號懸案解決セサルヲ以テ相互關係等ヲ考慮シ存虜ノ米國宛送金之ヲ許可
 シアラヌ

居普通第九四八號

昭和十八年十二月二十九日

外務省在歐國居留民關係事務室 鈴木公使

存虜情報局長官殿

英國人存虜ニ對シ食糧改善方申出ノ件

曩ニ赤十字國際委員會並ニ在京瑞西國公使館ヨリ英國人存虜ニ對シ營養相足ノ爲大臣増給
 方申出アリタル處此種特定食料品ニ對スル要求ニ應諾シ得サルハ勿論、儀ト被存タルニ付
 關係當局ニ於テハ存虜ノ食糧ニ對シ細心ノ注意ヲ拂ヒ居レルヲ以テ特定品ノ増給ヲ特ニ考
 慮スル必要ヲ認メ難シト應酬シ置キタリ
 然ルニ今般在京瑞西國公使館ハ別添十二月九日附口上書譯文ノ通存虜ノ食糧ニ関スル英國
 政府抗議ヲ得、達越セル處本件處理ニ関シテハ關係當局ニ於カレテモ充分ノ考慮ヲ拂ハレ居
 リ英國側申出ノ如キ事項ニ就ニ御考覽濟ノコトト被存已先方抗議反駁ノ適當資料モアラハ
 御回示置相成度

十二月九日附在京瑞西國公使館口上書譯文

帝國外務省ハ瑞西國公使館ニ對シ六月二十三日附居普通第一八七號ヲ以テ鈴木公使閣下發

在本邦國際赤十字代表宛公信爲ヨ送付セラレタル處右ニ依レハ關係當局ハ存辱食糧問題ニ
付充分ノ注意ヲ拂ハルヘキ旨陳ヘラレ居レリ

同公使館ハ外務省ニ対シ石ノ次第關係國政府通告ノ爲自國政府へ報告セル旨通知スルノ光
榮ヲ有ス

一方英國政府ハ左ノ通告ヲ爲シ來レリ

存辱ニ分配マラレタル定糧表ノ分析、存辱ノ一般的重量減退、南方諸地域ニ於ケル脚氣ニ
因ル多数ノ死亡等ハ何レモ日本官憲ニ於テ存辱カ十分ナル食糧ヲ與ヘラレ居レリトノ主張
ト相違スルモノナリ

殊ニ脚氣ニ関シテハ存辱ニ対シ通常米カ精米ニテ交付セラルル爲主要「ガイタミン」タル
「ガイタミン」Bノノ缺乏ニ基因ス

依テ英國政府ハ日本ノ握内ニ在ル凡テノ存辱カ其ノ健康ヲ維持スルニ充分ナル食糧ヲ與ヘ
ラレムコトヲ主張スルモノナルカ特ニ關係當局カ精米ノ代リニ半搗米ヲ與ヘラレムコトヲ

一〇九外

要請ス

瑞西國公使館ハ外務省ニ対シ石關係當局へ證據方要請旁致ニ重ネテ敬意ヲ表ス

存給第一號

英國人存辱ニ対シ食糧改善方申出ノ件回答

昭和十九年一月十三日

存辱情報局長官

外務省在敵國居留民間關係事務室 鈴木公使殿

十二月二十九日附居普第九四八號來照首題ノ件左記ノ通ニ付承知相成度

左記

一 現在精米ヲ用ヒス或米ヲ給與シアリ尚米糠「ガイタミン」劑等ヲ補給シ以テ「ガイタ」
ミン不足ヲ補ヒツツアリ

二 脚氣ノ罹病ハ食糧不足ニ起因セルモノニアラス寧口食糧其ノ他生活狀態ノ変化ニ因ル

三ノト思考ス

極譯文

參照第二四四號

一 俘虜及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件

謹啓陳者以前ノ調査ニ基ク俘虜及抑留者ニ対スル玄米支給ノ件ニ関聯シテ壽府委員會ヨリ本代表部宛電報ヲ以テ下記再調査方依頼致シ承甲候即チ前同様玄米支給量ノ増加可能アリヤ若シ必要ナレバ赤十字國際委員會ノ資金ヲ以テ購入スルコト、次ニ俘虜及抑留者ノ現地ニ於ケル給食量不足ヲ適合中和スル爲水糶ヲ供給ス可ク用意スルコト等ニ之在候右ノ歎願事項ニ対シ貴局ノ従前通り御深切ナル御高配ノ程懇請仕候而シテ壽府委員會ノ提議カ實行可能ナリヤ否ヤ當代表部宛御回答被下度御願申上候

昭和十九年二月二十二日

敬具

赤十字國際委員會 駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘給第一四號

俘虜及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件

昭和十九年二月二十九日

俘虜情報局

赤十字國際委員會 駐日代表部 御中

二月二十二日附參照第二四四號來照首題ノ件玄米ノ増加ハ困難ナリ帝國權内ニ在ル俘虜及抑留者ニ対シテハ榮養價ヲ考慮シ必要ニシテ且ツ充分ナル糧食ヲ補給シアルニ付何等懸念ノ要無シト石回答ス

昭和十九年五月十八日

外務省在敵國居留民關係事務室 鈴木公使

陸軍省存虜管理部長 殿

存虜タル和蘭陸軍中將「テイーバツカール」ニ對シ俸給支給方ノ件

今船在京瑞西國公使館ヨリ別添口上書假譯ノ通台湾ニ於テ存虜トシテ收容中ノ和蘭陸軍中將「テイーバツカール」カ何等俸給ノ支給ヲ受ケ居ラサル趣ヲ以テ其ノ階級ニ相當スル俸給支給方並ニ俸給ノ支給ナク存虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ對スル補償支給方申越シタルニ付委細石ニテ御了知ノ上本件回答取ニ関シ何分ノ儀御回示相成度

尚在京瑞西國公使館ヨリ得タル情報ニ依レハ同人ハ退職將校トシテ現役將校ニアラサル趣ナリ石御参考迄ニ申添ス

一九四四年五月五日附在京瑞西國公使館口上書假譯文

ノ外

瑞西國公使館ハ和蘭國利益代表トシテ現在台湾ニ於テ存虜トナリ居レル和蘭人「テイーバツカール」陸軍中將ニ對スル日本軍當局ノ待遇ニ付帝國外務省ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ與ス

太平洋戰勃發ノ際「テイーバツカール」中將ハ勲員局長ノ地位ニ在リタリ

同中將ハ日本軍ニ依リ捕獲セラレ存虜收容所へ收容セラレタルカ右ハ其ノ軍歴ハ最後ノ軍職ニ對シ自然ニシテ論理的ナル結果ナルヘシ日本側ノ原則ハ一級ニ存虜トナレル各將校ノ軍階級ニ相當スル俸給ヲ支給スルニ在ルニ拘ラス同中將ハ如何ナル俸給ヲモ受領シ居ラス公使館帝國外務省ニ對シ「テイーバツカール」中將ノ階級ニ相當スル俸給支給並ニ俸給ノ支給ナク存虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ對スル補償支給ニ付幹施方依頼ス

存給第二八號

存虜タル和蘭陸軍中將「テイーバツカール」ニ對シ俸給支給方ノ件回答

昭和十九年五月三十日

陸軍省 存虜管理部長

外務省 在敵國居留民關係事務室

鈴木 公使 殿

五月十八日附居普通第三五六號來照ノ「テイトハツカール」ハ退役陸軍中將ノ身分ヲ有スト
雖モ今次戦争ニ軍人トシテ参加シ帝國ニ存虜ト爲リタルモノナリ仍テ之ニ對シ軍人存虜タ
ル待遇ヲ與フルコトヲ得ス非軍人存虜タル取扱ヲ爲スヲ至當トスルモノニシテ從ツテ俸給
ハ之ヲ支給セサルモノナルニ付承知相成度

居普通第五八九號

昭和十九年八月二十八日

在敵國居留民關係事務室

鈴木 公使

存虜情報局長 官 殿

存虜タル英國商船員ニ對スル告知傳達方ノ件

今敝在京瑞西國公使館ヨリ英國政府ノ要請ニ基キ別添ノ如キ東亞ニ於ケル存虜タル英國商

ニノ内

船員ニ對スル告知傳達方依頼アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ス可然御取計相成度

英國商船員ニ對スル告知 (譯文)

抑留セラレタル英國商船事務員(船長ヲモ含ム)又ハ船員ニシテ其ノ抑留ニ関スル給料ヲ
基奉トス手當ヲ受クルモノハ何時ニテモ在「ブラックプール」及「イクロス」恩給局ニ對
シ郵便貯蓄銀行ノ勘定ニ手當保管方請求スルコトヲ得、右預金ハ年ニ、五「パーセント」
ノ割ニテ利子ヲ加算セラル右ノ保管セラルヘキ勘定ハ所得税ニ對スル必要ナル修正、家族
ニ對スル手當及存虜收容所ニ於ケル小遣錢支出ノ準備ヲ爲シタル殘額又、商船事務員恩給
資金會員或ハ各會社ノ恩給資金會員タル場合ハ其ノ恩給資金員擔額ノ殘額ニ當ル。
右勘定ハ事務員又ハ關係者ヨリノ特別ノ依頼ニ依リ恩給省ノミカ郵便貯蓄銀行ニ預金スル
コトヲ得、其ノ書式左ノ通 (下略)

停船タル英國商船員ニ対スル告知傳達ニ関スル件回答

昭和十九年九月十三日

停船情報局長 啓

外務省在歐國居留民関係事務室 鈴木公使 殿

八月二十八日附居普通第五八九號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

停船收容所ニ收容中ノ船員ニ対スル取扱ハ船長ニ在リテハ佐官相當者タル文官職員(高級船員)ニ在リテハ尉官相當者タル文官船員ニ由(但シ勞務ニ服シ賃金ヲ得)ヲ支給シテノミニシテ其ノ他ノ者ハ兵同等ノ待遇ヲ爲シアリ從ツテ本件ニ該當スル手當ヲ支給シアラサルヲ以テ傳達ノ要ナキモノト思料ス

參照第四五八號

一 停船ノ預金ヲ日本支配下ノ近親者宛送金ニ関スル件

謹啓陳者貴局宛弊書一九四四年六月二十八日附第丁ノ六號ヲ以テ御送附申上置候。H、C

アングスト代表ノ台灣停船收容所視察ニ関スル電報々告書御參照被下度御願申上候

電報第丁ノ六七號第五項ニ今日迄許可相成居候停船ヨリ瓜哇、比島及馬來居住ノ近親宛送

金ニ関スル情報ヲ記載仁リ居候電報第丁ノ六八號第四項ニ於テ英國人停船旅團長 *Drum*

Simons ニ依リ述べラレタル希望、即チ停船ノ予金勘定ヨリ馬來、比島及特ニ前蘭領東

印度ニ於ケル近親者へ定期的送金實施ノ許可ニ関スル件ヲ傳達致シ居候

前記電報ニハ台灣停船收容所長ノ述べラレタル情報即チ軍當局ニ於テハ送金問題ニ関シ最

善ノ努力ヲ致シ居ラルル事實ヨモ記載致シ居申候

右ニ関シ貴府委員會ヨリ電報ヲ入手仕候夫レニ依リハ貴府委員會ハ關係國赤十字社ニ代リ

斯カル送金問題ノ重要ナル点ヲ強調シ將來關係ヲ有スル停船ニ対シ定期的間隔ヲ置キ申候

用シ得ベキ譲渡機関改定ノ爲メ日本軍當局ニ於テ確平タル御處置ヲ御承諾被下候事ニ對シ
衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表明仕候

本代表部ハ貴局ニ於テ斯カル金銭讓渡ニ對シ御仁慈ナル御留意御懇請給ハテハ難有奉存候
而シテ右関シ如何ナル御處置ヲ御講ニ被下候事ハ適當ト被存候哉御通知被成下候ヘバ感謝
ノ至リニ奉存候

昭和十九年七月二十八日

赤十字國際委員會駐日代表部

存處 情報局 殿

存給第三八號

存處ノ送金ニ関スル件回答

昭和十九年八月十一日

存處 情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

二頁内

七月二十八日附参照第四五八號承照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

帝國臣民ノ南方占領地宛送金ニ爲替管理ノ關係上嚴重ナル制限下ニ在ル現状ニ鑑ミ存處ノ
ミ對シ自由乃至ハ寛大ナル送金ヲ許スヲ得ス、但シ本件處收容所ニ於テハ事情已ムヲ得ス
ト認メタル場合ハ適宜ノ方法ニテ送金セシメアルヲ以テ承知相成度

譯文

参照第八五一號

一英國人存處ニ支払ハレル給料ノ件

謹啓陳者一九四四年六月本代表部 *I. C. Morgan* 代表ガ台灣存處收容所ヲ訪問仕候節台灣
存處收容所第一分所ニ於ケル存處將校連ニヨリ作製セラレタル質問書ヲ收容所長ノ御好意

ハモトニ受領仕候該質問書ハ侍房ノ家族カ本國ニ於テ支給ヲ受ケテ居ル金額並ニ收容國ニ於テ侍房カ支払ヲ受ケルケメニ差引カレル可キ金額ヲ質問セルモノニ御座候
 石ニ関シ只今專府委員會ヨリ入手仕候電報ニ依レバ英國政府ハ左記資料ヲ提出致シ候

左記

一 收容國ニ於テ國貨ヲ以テ支払ノ可キ金額

大將	五五〇.〇〇
中將	四九二.〇〇
少將	四一六.〇〇
副少將及大佐	三一〇.〇〇
中佐	二二〇.〇〇
少佐	一七〇.〇〇
大尉	一二二.〇〇
中尉	八五.〇〇

少尉 七〇.八三

(四) 英國ニ於テ右ト同額ヲ換算率 $1/100 = 1/100$ ヲ以テ差引キヲナス該差引額ハ假定的ノモノニシテ若シ侍房カ前記金額ニ対スル金額ノ支給ヲ受ケザル場合、又ハ支払ヲ受ケタルモ一部ノミカ使用ナサザル場合ニ対シテハ本人カ歸國後之等ノ事實ヲ確證セル場合ニハ其支払ヲ受ケザリシ金額又ハ使用ナサザリシ金額ニ対シ前記換算率ヲ以テ支払ヲナス

(二) 家族及被保護者ニ対スル手當及給與金

斯カル家族及被保護者ニ対スル手當及給與金ノ支給ハ本人カ補償セラレル迄支給ナシ居リタルモノニ対シテハ通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ繼續サル、支給額ノ一部ヲ妻或ハ他ノ被保護者ノ利益ノタメニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ニハ侍房カ補償セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ補償セラレザレバ補助ヲナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

前記「一」ニ記載セラレタル金額ハ日本軍當局ニ於テ侍房ノ階級ニ應シ現ニ支給相成

少佐ルモノト推定仕候記テハ該部書ハ内容ヲ台湾存虜收容所第一分所ノ三十万三千五百
当局ノ御管轄下ニ於テ現在在英國人將校ノ收容カレ居ル各收容所ニ御傳達被成下候
代表部ガ衷心ヨリ感謝仕ル次第ニ御座候

昭和二十年四月六日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局 殿

存給第二ニ號

英國人將校存虜ノ給料ニ関スル件

昭和二十年四月二十七日

存虜情報局

台湾存虜收容所 御中

客年六月赤十字國際委員會駐日代表部 *I/C Orngat* 代表貴所訪問ノ節英國存虜ヨリ同代表
ニ提出セル質問「存虜ノ家族カ本國ニ於テ支給ヲ受ケ居ル金額並ニ收容國ニ於テ存虜カ支

払ヲ受ケル爲ニ差引カル可キ金額」ニ對シ英國政府ヨリ左記ノ通提示アリタル事付可然傳
達相成度

左記

一 收容國ニ於テ國貨ヲ以テ支払フ可キ金額

(1) 將校 大將 五五〇、 中將 四九二、 少將 四一六、 副少將及大佐 三一〇、

中佐 二二〇、 少佐 一七〇、 大尉 一二二、 中尉 八五〇、 少尉 七〇八、

(2) 英國ニ於テ右ト同額ヲ換算率 $\frac{1}{100} = 10\%$ ヲ以テ差引キヨナス該差引額ハ假定的

ノモノニシテ右シ存虜カ前記金額ニ對スル全額ノ支給ヲ受ケサル場合、又ハ支払ヲ受

ケタルモノ一部ノミカ使用ナサル場合ニ對シテハ本人カ歸國後之等ノ事實ヲ確證セル場

合ニハ其ノ支払ヲ受ケサリシ金額又ハ使用ナサリシ金額ニ對シ前記換算率ヲ以テ支払

ヲナス

二 家族及被保護者ニ對スル手当及給與金

斯カル家族及被保護者ニ対スル手当及給與金ノ支給ハ本人カ捕獲セララルル迄支給ナシ居
 リタルモノニ対シテハ、通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ繼續サル、支給額ノ一部ヲ妻
 或、他ノ被保護者ノ利益ノ爲メニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ニ
 ハ存虜カ捕獲セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ捕獲セラレサレハ補助ヲ
 ナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

以上

居普通第二八號

昭和十九年三月十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴 木 公 俊

存虜情報局長官 殿

元、グアム島其他ニ就働セル米國人非戦闘員ニ
 対シ給與規定傳達方ニ関スル件

米國政府ヨリ在京瑞西國公使館ヲ通シ元、グアム、ウエーキル及比島ニ於テ各種建設工
 事ニ従事セル非戦闘員雇傭者ニ対シ其給與ニ関スル規定左ノ通傳達方要請越タルニ付テハ
 可憫御取計相成度尙御措置ノ上ハ爲念其旨御指示相煩度

追而右來信ニハ之等従業者ハ東京第二同第三、大阪、神戸、福岡、善通寺、及上海、江湾
 及、ワロドワード、各收容所ニ收容中ナル旨附記セラレ居ルニ付中添フ

假譯文

太平洋島嶼雇傭者賊團「テイタース」夫人ヨリ元、グアム、ウエーキル及比島ニ在リ
 タル非戦闘員契約雇傭者ニ対シ、一九四二年十二月二日法律第七八四號、一九四三年十
 二月二十三日同修正法律第一六號ニ関シ新法規ハ彼等ニ対スル給與ノ支払ヲ規定シ居
 リ彼等ノ被扶養者ハ満足ニ資金ヲ受領シツ、アル旨通達ヲ請フ

元「グアム」島其他ニ並働セル米國人非戰鬥員ニ對スル給與規定傳達ニ関スル件回合

昭和二十年六月六日

序房情報局長官

外務省在敵國民留民關係事務室

鈴木公使殿

五月二十一日附居普通第

號未照首題ノ件ハ既ニ各序房收容所ニ傳達済ナルニ付承知

相成度

居普通合第三二九號

昭和二十年八月二十六日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

序房情報局長官殿

帝國疆内ニアル序房抑留者ノ給養ニ関シ米國政府申越ノ件

本件ニ関シ今般在本邦瑞西國公使館ヨリ別紙假譯文ノ通申越シタルニ付委細右ニテ御了知ノ上回答資料大至急御送付相煩度

在本邦瑞西公使館口上書 (一九四五、八、一三附) 假訳

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ米國政府ハ瑞西國政府へ左記日本政府ニ對スル通告取報方ヲ要請ナル旨通報入ルノ光榮ヲ有ス

記

一九四五年七月四日元在米國ニ於テ收容セラレ居ル日本人抑留者ハ毎日四八三一對度、四

一〇〇「カロリー」ノ食糧ヲ供與セラレ居リ石食糧ハ下記ノ如ク
 第一ノ数字ハ封度ニ依ル第二ハ「カロリー」含有量ナリ

一	内及魚	〇・四四二五	四四二
二	鶏卵	〇・一〇七二五	六四
三	牛乳及「チーズ」	〇・五六七四四	三〇二
四	「マーガリン」	〇・〇三六	一一一
五	他ノ油脂	〇・〇五六二五	二三〇
六	砂糖	〇・二二五五	三五一
七	穀類	一・二三四	一八八八
八	野菜	〇・〇四四〇	七四
九	青物	〇・五四八	五五
一〇	「トマト」	〇・一五一〇四	五

Sugar = 3.5 cal

二	柑橘果實	〇・一八
三	馬鈴薯	〇・七〇
三	他ノ野菜	〇・三五五二六
四	他ノ果物	〇・一四八
五	干果實	〇・〇四五
六	飲料	〇・〇六九
七	雑	〇・〇四三一七

日本政府ハ前記食事がヨク均衡ノ保タレ居ルモノナルヲ認ムナラン、一九四五年五月五日現在米國ニ在ル日本俘虜モ同様ニ均衡アル食事を受ケツツアリ俘虜ニ對スル代表的獻直正ノ如シ

- 朝食 果實ノ「スチュー」 小麦 穀物 「ミルク」 玉子一個 野菜
- 「サラダ」 珈琲

晝食 魚、米飯、野菜、サラダ、麵麩

夕食 「スープ」、食肉、「マカロニ」、馬鈴薯、麵麩、茶

朝食 生果実、玉蜀黍飯、辟米粥、ミルク、麵麩、マーカリン、珈琲

晝食 食肉、米飯、野菜、サラダ、麵麩

夕食 「スープ」、大豆、馬鈴薯、野菜、麵麩、茶

米國政府ハ日本占領地域並ニ日本ニ於ケル米國人俘虜及抑留者ニ對シ日本政府ノ供與スル食糧ニ付益々憂慮ノ念ヲ深メツツアリ米國ニ於テ受領セラレタル報通ハ多數ノ收容所ニ於テ食糧事情悪化シ居ルヲ示セリ日本ニ依ル監禁ヨリ釈放セラレタル北島米國人ノ狀況ハ日本ノ手中ニアル米國人ノ健康ニ對スル米國政府ノ憂慮ハ根據ナキニアラザルコトヲ示セリ米國政府ハ戰爭ノ当初ヨリ東洋人ノ食糧ニ關シザル米國人ニ對シ日本食ノ反スベキ障害ノ故ニ憂慮シ居リタリ米國政府ハ昔ニ米國人カ東洋食ニ慣ルルコトノ困難ナルベキノミナラス亦其ノ榮養價ハ米國人ノ慣用スル食糧ヨリモ鮮カルベシト感シ

三四四

弓ノリ、米國人俘虜及抑留者ニ對スル食糧ハ米國政府ヨリノ引續ク要請事項ナリキハ公使館宛外務省宛九月四日附及六月二七日附口上書参照日本政府ハ其ノ手中ニアル米國人ニ適當ナル食糧供與ケニ付戰爭ノ初ヨリ必要ナル措置ヲ講ズルコトヲカリキ米國官憲ハ日本官憲ト異リ量ニ於テモ充分ノミナラス俘虜抑留者ノ國民的嗜好ニ合致スル食糧ヲ供與セリ米國政府ハ知ルル限り米國官憲ニ依リ收容セラレ居ル日本人ニ對シ供與テ居ル食糧ニ付テハ何等ノ不平等ナシ最近日本人ニ依リ運營セラレ居ル俘虜收容所及抑留所ノ米國人ニ對シ總テノ財政的援助ヲ停止セル日本政府ノ行爲ハ日本人カ糧内米國人ニ對シ從來ノ唯一ノ方法タル現定トシテ基礎ニ依ル食糧ノミヲ給與セントシ居ルコトヲ示シ居レリ日本政府ハ米國人ノ爲メ救恤品購入ヲ中立國代表ニ許容スルカ又ハ日本政府カ其ノ義務ニ從ヒ俘虜及抑留者ヲ給養スルニ非ザレバ米國政府ハ日本政府カ其ノ糧内ノ米國人俘虜及抑留者ノ饑餓ヲ是認スルモノナリト思考スルノ外ナシ米國政府ハ日本政府カ速ニ其ノ手中ニアル米國人ヲ饑餓ヨリ保護スルハキ實保障ヲ與ヘンコトヲ期待ス米國政

府ハ尙日本政府カ其ノ手中ニアル米國人カ餓餓ニ陥ラザルコトヲ保障スル爲故ルヘキ手
段ヲ示サレンコトヲ期待ス米國政府ハ日本政府ニ示シ日本ノ手中ニアル米國人カ餓餓ノ
給養ニアル旨ノ報告ヲ看ルニ重大関心ヲ以テシ居ルコトヲ強調ス米國政府ハ日本政府及
其ノ官吏カ日本ノ手中ニアル米國人ノ餓餓ニ對スル責任ヲ逃ルルマトヲ得サルベキ旨
言ス

本通告ニ對スル帝國政府ノ回答通報方依頼シ公使館ハ外務省ニ對シ重ネテ敬意ヲ表ス

俘虜ノ給與ニ関スル件

陸軍省案

陸軍一般へ達

大東亞戰爭ニ於ケル陸軍ノ管轄ニ属スル俘虜ノ給與ニ関シ左ノ通定ム

昭和十七年

月 日

陸軍大臣

七五外

第一條 大東亞戰爭ニ於ケル俘虜ノ給與ニ関シテハ明治三十七年陸運第九十七號ノ二
俘虜取扱細則ノ規定ニ拘ラズ本達ニ依ル

第二條 俘虜タル將校ニハ其階級ニ應ジ帝國陸軍將校ノ受クル俸給(佐官ニ在リテハ昭
和十四年勅令第四九〇號「陸軍軍人俸給臨時特例」別表第一ノ俸給)ト同一金額(一階
給中級額ニ等級アルモノハ最下額)ニ依ル戦時増給ハ之ヲ支給セズ

第三條 俘虜タル文官及准士官以下ニハ俸給ヲ支給セズ

第四條 俘虜タル將校ノ糧食ハ自辨トシ傳令又ハ当番ヲ附シ自炊セシム
收容所長(之ニ準スル者ヲ含ム以下同ジ)ハ必要ニ應ジ第五條ニ準ジ糧食ノ給與額ヲ指
定スルコトヲ得

第五條 俘虜タル文官(高等文官同相當者ヲ除ク)及准士官以下ニ給スル糧食ハ左ノ區
分ニ依ル

一 主食ニ在リテハ陸軍給與令第九表ノ定量ノ範圍内ニ於テ勞役及其人他ニ於ケル國民

食糧配給量等ヲ斟酌シ收容所長之ヲ定ム

二、賄料ニ在リテハ其ノ他ニ付定メラレタル定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號）

食定額並ニ裝飾料臨時増加ノ件ニ依ル増加額ヲ含ム）以内ニ於テ実費支辨トス

高等文官、同相当者及人員少数ニシテ前各號ニ依リ難キモノニ在リテハ陸軍給與令

九表ノ食料定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號）糧食定額並裝飾料臨時増加ノ件

ニ依ル増加額ヲ含ム）内ニ於テ実費支辨トス

第六條 存虜ノ被服ハ本人着裝ノモノヲ使用セシム、但シ左記被服ハ之ヲ貸與スルコト

ヲ得

一、寢具（古品トシ古品ナキトキハ新品トス）

二、准士官以下ノ着裝被服ニシテ使用ニ堪エザルニ至リタルトキニ限リ別表第一ノ被服

三、文官ニシテ着裝被服使用ニ堪エザルニ至リタルトキハ別表第二ノ額ヲ超エザル範圍

内ニ於テ國民服ニ準ジ調製シタルモノ

五
外
由

前各號ニ依リ貸與シタル着裝被服ハ本人が解放若ハ死亡ノ際之ヲ本人ニ支給スルコト
ヲ得

第七條 存虜タル文官及准士官以下ノ被服ノ補修ハ別表第三ノ金額以内ニ於テ実費支辨

トス

第八條 陣營具ハ所要ニ應ジ貸與スルコトヲ得

前項陣營具ハ在庫品ヲ應用シ其保續費ハ実費支辨トス

第九條 存虜ノ後室用薪炭ハ陸軍給與令細則第十二表ニ依リ其ノ他ニ付定メアル歩兵隊

（歩兵隊ナキ場合ハ其ノ他ニ在リ部隊トス）ノ每一人額ヲ基準トシ実費支辨トス

第十條 存虜タル文官及准士官以下ニハ別表第三ノ金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ日用品ヲ

支給スルコトヲ得

第十一條 存虜ニシテ旅行ヲ爲サシムル必要アルトキハ陸軍旅費規則第五表ノ定額（朝鮮

臺灣、樺太、関東州及滿州ニ在リテハ当該軍司令官ノ定ムル額）以内ニ於テ実費支辨ト

入 但シ單収送送ヲ爲ストキ等前項ニ依リ雖キ場合ニ在リテハ陸軍費規 第三表定額
 内実費支辨ト爲スコトヲ得

第十二條 將虜ノ埋葬ニ要スル費用ハ左ノ金額以内ニ於テ実費支辨トス

准士官以上同相当者 三十円
 下士官兵同相当者 二十五円

第十三條 官衙ニ於テ将虜ヲ使役スル場合ノ賃金ハ明治三十七年陸運第十三九號(将虜勞

役規則)第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ區分ニ依ル、但シ特種ノ技術ニ従事セシムル者ニハ
 本人ノ技術、勤惰、従業時間、従業場所等ヲ斟酌シ更ニ三十五我以内ヲ増給スルコト得

下士官 一日 十五我
 兵 一日 十我

第十四條 戦地ニ在リテハ其ノ地ノ最高指揮官前各條ニ準ジ之ヲ定ム

一之外

附 則

本達ハ昭和十七年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年陸普第一二四號(将虜文官給與ノ件)及大正七年歐発第一六〇號(将虜埋葬費支
 辨方ノ件)ハ昭和十七年 月 日限り之ヲ廢止ス

別表第一

将虜貸與被服品員数表

品 目	員 数
略 帽	—
冬 衣 袴	—
夏 袴	—
冬 襪 袴 下	—
夏 襪	—
軍 靴	—
線 下	—
靴 下	—

備 考

一 貸與人ハキ被服ハ古品トシ古品ナキトキハ新品トス

別表第二

文官被服新調費基準額表

階級	區分	冬		夏		冬		夏	
		帽	衣袴	帽	衣袴	帽	衣袴	靴	
將官相当者	六〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	二五〇〇		
佐尉官相当者	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	二〇〇〇		
准士官相当者	四〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一五〇〇		
下士官相当者以下	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一五〇〇		

別表第三

被服補修及日用品定額表

階級	區分	被服補修費(月額)		日用品(月額)	
		冬	夏	冬	夏
武官	准士官	一、五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
武官	下士官	一、〇〇〇	五〇〇	一、〇〇〇	五〇〇
文官	將官相当者	七、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
	佐官相当者	五、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇
	尉官相当者	三、〇〇〇	二、〇〇〇	七〇〇	三〇〇
	准士官相当者	二、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	二〇〇
	下士官相当者其他	一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇	一〇〇

居普通第一四號

昭和十八年三月九日

在敎國居留民關係事務室

特命全權公使 鈴木 萬

存虜情報局長官 殿

川崎 義次 神奈川 存虜收容所改善方米國政府ヨリ申上ニ関スル件

二月二十日附居普通第一四七號ヲ以テ東京及横浜存虜收容所待遇等ニ関シ申進シ置キタル
 卜コ口今般更ニ在米邦瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通米國政府ノ要求ヲ通報セシタルニ付
 委細同譯文ニヨリ御承知相成度此致申進ス

譯文

第CC一、二、四、CICU 號

三月二十四日

瑞西國公使館

帝國公使館ハ一月二十二日附第CC一、二、四号ヲ以テ帝國外務省ニ對シ米國政府カ東京附近品川所存貯蔵收容所ニ存在スル状態ノ改善方ヲ帝國政府ニ要求スル旨通報スルノ光榮ヲ有シタリ。本件ニ関シ軍當局ノ執ラレタル決定ヲ御通報アラシコトヲ依頼ス。

一方米國政府ハ川崎、横浜及神奈川ノ收容所ニモ同様ノ改善ヲ爲サレタキ希望ヲ表明セリ。更ニ同政府ハ左ノ點ニ帝國政府ノ注意ヲ喚起セント欲ス。

一 酒ハ各收容所ニ設置セラル可シ貯蔵ノ待遇ニ因スル一九二九年七月二十七日ノ條約ハ其才十二條ニ於テ「各收容所内ニハ酒保ヲ設ケ貯蔵ヲシテ地方的市價ヲ支拂ヒテ食料品及日用品ヲ購買シ得セシムヘシ」ト規定シ居レリ。

二 貯蔵タル下士官ハ「特ニ報酬的作業ヲ要求セサル限り」監督勞働ニノミ服セシメラルヘシ（司條約才二十六條才三項）。

三 同條約才四十四條才二項ハ「信任者ト軍事官憲及保護國トノ通信ノ爲該信任者ハ一切

二七九

ノ便宜ヲ與ヘラルヘシ」及「該通信ノ數ハ制限セラレサルヘシ」ト規定セリ。

四 貯蔵條約才十六條才二項ニ依レハ貯蔵ニシテ司教タル者ハ自由ニ同宗派ニ屬スル者ノ間ニ宗教ヲ司ルコトヲ許サルヘキナリ。

米國政府ハ帝國政府カ上記收容所ニ存スル状態ヲ貯蔵法典ノ要求ニ合致スル様改善スルノ何等カノ措置ヲ執ルコトヲ切望ス。

斯テ瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ本件米國政府ノ要求ニ関シ帝國政府ノ見解ヲ回報セラレンコトヲ依頼シ茲ニ重テ深甚ナル敬意ヲ表ス。

翻譯文

參照第一三三號

東京貯蔵收容所内加奈陀人貯蔵RSM OSCAR CHARLES KEENAN. H600Aニ関スル件

謹啓貴局益々御隆祥之段奉賀慶候

就テハ青府赤十字國際委員會經由入手仕候消息ニ依レバ標記ノ存虜ハ眼鏡ヲ必要トスル由ニ御座候

本代表ハ存虜收容所ニ於テハ適當ナル眼科医ノ手當ヲ受ケ得ラルル事實ヲ充分ニ承知仕居候

而シテ若シ標記ノ存虜カ事實眼鏡ヲ必要トスルモノナレバ無論適宜ノ處置ヲ致サレ居ルモノト確信仕候ニモ不拘若シ貴局ニ於テ右御調査ノ上其結果可及的速ニ御通知被成下候ヘバ感謝ノ至リニ奉存候

昭和十八年十一月三十日

敬 具

赤十字國際委員會日代表部

存虜情報局 御中

存給第三號

加奈陀人存虜ニ関スル件回答

昭和十九年十月二十日

存虜情報局

赤十字國際委員會日代表部 御中

参照第一三三號参照首題ノ件左記ノ通回答ス

左 記

加奈陀存虜「キーン」ハ昨年三月横浜市五味眼鏡店ニテ適當ナル眼鏡ヲ購入シ現在ソレヲ使用シ居リ何等不便ヲ來シ居ラサルニ付右回答ス

條ニ普通第四三四號

昭和十九年六月二十九日

存虜情報局長官殿

外 務 次 官

上海存房收容所ニ於ケル五名ノ英國人保護人員ノ取扱ニ
関スル英國政府申出ノ件

四三四

本件ニ関シ今般在京端西國公使館ヨリ五月十二日附口上書CC/5/10/1EPIヲ以テ別添寫ノ通
道報アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ニ委細右ニテ御了知ノ上何分ノ儀御回示相成度シ

本信寫送付先 陸軍省 海軍省

五月十二日附在京端西國公使館口上書CC/5/10/1EPI

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ対シ英國政府カ赤十字國際委員會ヨリ英國人存房ノリスト
一通ヲ受領シタル處ニカヤニハ保護人員ニ屬シ然モ日本官憲ニ依リ保護人員ト認メラレテ
リシ者ノ名カ含まレ居リタル旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

右ハ左ノ五名ニシテ英國陸軍備生部隊 (ROYAL Army Medical Corps) ニ屬シ上海ノ
收容所ニ收容セラレ居ルモノナリ

「ジエー、エー、ジー、エム、リンチ」 (JAGM. Lynch) 陸軍大尉

第三。五一九三五號「ジョー、ジ、アラン」 (Georges Allan) 伍長

第二。八三三七一號「エイチ、ジエー、ダーニー」 (H.T. Darcy) 兵

第七。三四四三三〇號「アレキサンダー、ブカーン」 (Alexander Buchanan) 兵

第二。五六八二一七號「トーマス、ムーニー」 (Thomas Mooney) 兵

同公使館ハ帝國外務省ニ於テ關係官廳ニ対シ前記五名ニ保護人員ノ享有スル特權ヲ賦與セ
シムル操幹施ノ効ヲ被ラルルナラバ深謝ニ堪エサルトコロナリ

本件ニ関スル帝國外務省ノ仲介ニ対シ謝意表彰旁々同公使館ハ茲ニ重ネテ外務省ニ向テ深
甚ナル敬意ヲ表ス

特給三三號

上海存房收容所ニ於ケル英國衛生人員ノ取扱ニ関スル件

昭和十九年八月九日

存房情報局長官

四五三

外務省 火官 殿

如左

六月二十七日附錄ニ普第四三四號來照首題ノ件ニ関シ上海停房收容所ニ就キ調査シタル所
該五名ハ捕獲當初香港停房收容所ニ收容ノ際赤十字條約第二十一條ニ定ムル該記章證明書
等ヲ所持セサリシ爲衛生人員トシテ認めアラサリシヲ以テ上海停房收容所ニ於テモ衛生人
員タルコトヲ認めアラサルモノナル旨回答ニ接シタルニ付承知相成度

居普通第七六六號

昭和十九年十一月二十一日

外務省 左敵國居留民關係事務室

鈴木 公 使

停房情報局長 官 殿

二八四

停房ノ保健衛生ニ関シ英國政府ヨリ申出ノ件

本件ニ関シテハ曩ニ九月二十日附居普通第六〇四號往信ノ趣旨ニ依リ英國政府ニ回答方取計
置キタル處今般更ニ在京瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通香港停房收容所ニ於ケル「ウイタ
ミン」缺乏症ニ対スル措置ニ付門合アリタルニ付委細石ニテ御了承相成度

一九四四年十一月十三日附在京瑞西國公使館口上書

假譯文

瑞西國公使館ハ帝國外務省ヨリ十月三日附屬普通第九五號電書ヲ受領シ帝國政府ニ於テ
ハ「停房ノ保健及衛生ニ関シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居リ」毎月停房ノ健康診斷ヲ行フ等ノ措
置ヲ講ジ又停房ニ對シ「ウイタミン」不足ヲ來ササル様宜キ 糠「ウイタミン」劑ヲ與ヘ
居ル旨特ニ通報越ノ次第了承スルノ光榮ヲ有セリ 外務省ハ脚氣患者數ハ内地ニ在リテハ
一分弱ニシテ泰國及「ビルマ」ニ在リテモニ分強ニ止ル旨附記セラレタリ
公使館ハ外務省ニ對シ石調保國政府へ移據ノ爲本國政府へ報告セルコトヲ通知スルノ光榮

ヲ耳ス

四三八

然ルニ英國政府及自治領政府ハ去ル八月十日赤十字國際委員會代表カ香港停房收容所ヲ
 門セル際ノ報告ニ依リ英國人停房中コウイタミン^レ 缺乏ニ依ル多數患者アルコトヲ承知
 ル旨倫敦ヨリ新通牒アリタリ此等政府ハ頗ル不安ニ驅ラレ居レリ
 仍テ英國政府ハ帝國官憲カ同症驅逐ノ為執ラレ居ル措置ヲ通報方希望シ居レリ
 公使館ハ帝國外務省ニ対シ右ニ対スル確言ヲ英帝國政府ニ通報方要請勞茲ニ重ネテ敬意ヲ
 表ス

香港自治領地總督部全由

停房情第一一號

停房ノ保健並ニ衛生ニ関スル件回答

昭和二十年二月一日

香港停房收容所長

298
 34
 1012
 894
 995
 34
 481163
 144
 190
 192

停房情報局長官殿

昭和十九年十二月八日附停房第一一號ニ係ル前題ノ件左記ノ通り回答ス

左記

一 停房ニ於ケル昭和十九年八月以降ビタミン不足症ノ種類別(脚氣、腸炎)各個人別患
 者一覽表附第一ノ第二ノ如シ發生新患ニ就キテハ脚氣患者ハ最低〇・一八%ヨリ最高一
 〇・七%ノ間ヲ上下シツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇・一五%ヲ出テス急性腸炎ハ一%前
 後ニシテ其他ノ栄養病ニアリテハ一%以下ニ止ヒリ
 尚入院患者ニアリテハ脚氣ハ最高八・一%ヨリ最低三・八四%ニシテ漸減シツツアリ
 急性腸炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ栄養病ニアリテハ一・七%以下ニシテ柯レモ漸次
 減少シツツアリ

三 右防止対策

四 施療上

四九七

毎日定期的ニ香港陸軍病院ヨリ存房用藥物ヲ受領シアリ(附系第三)
是ヲ以テ見ルモ毎日ビタミン同Bノ液同B錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シマリテ是
者ノ治療ニ遺憾ナキモノト信ス

(四) 給養上

現在存房ニ就キテハ附表第四 第五ノ如ク給與ヲ實施シツツアリテ算定養價ニアリテ
ハ最高ニ・七七六・七六〇カロリー 最低ニ・〇七・〇七〇カロリーナリ然シテ毎月二回ニ亘リ是
入ヲ許シ巨勞務有ハ勞役費ヲ得ルヲ以テ存房酒保ヨリ罐詰(牛肉、魚肉、野菜、豆等)
ヲ購ベシ得ヘリ更ニ毎月報告ノ如ク自營栽培並ニ養鶏養豚ニヨル收穫物相當量アリテ
營養上ニツイテハ充分ナリ尚將來ハ益々自營栽培等ヲ増強セシメアルヲ以テ更ニビタ
ミン欠乏症患者ノ減少ヲ期待シ得ヘシ

(五) 其他

毎朝約三十分ニ亘リ心身保健体操ヲ實施シ戶外遊戯散步入浴等ヲ奨励シアリテ保健狀

態ハ良好ナリ

三 右ノ反駁資料

(一) 氣候風土ニ對スル存房體質ノ虛弱點ナキヤトノ照會アリシモ當前ノ存房就中白人存
房中英人ハ數年上着セルモノニシテ氣候風土ニ概不馴化シアリタルト思考シ得ヘク如
余陸人存房ハ大東亞戰勃発約三週間前ニ到着セルモノニシテ前居住地ハ、ジャマイカ
ニシテ英人ニ比シ體力稍ニ劣弱ト思考サル其他英軍軍ハ殆ト香港生シ乃至ハ香港ニ永
住セシモノニシテ氣候風土ニ慣馴シアルヲ以テ考慮スルノ要ナシ

(二) 治療上成シ得ル限り香港陸軍病院ト緊密ニ連絡シビタミン劑ノ確保ニ萬全ヲ期シツ
ツアルモ藥品ハ病院自體ニ於テモ一級ニ欠乏シアル狀態ニシテ存房ノ爲特別ノ便宜ヲ
得ルニ至ラス

対策トシテハ第一項給養上ノ施策ニ述ヘタル如ク現地自營栽培ヲ更ニ強化シビタミン、
欠乏症ノ減少絶無ヲ期シツツアリ

附表第一

英、加其他（白人）國籍別各月末現在入院患者一覽表

月別	八月			九月			十月			國籍別	病名別
	英	加	其 他	英	加	其 他	英	加	其 他		
脚氣	八二	五〇	四	八二	五〇	四	一三六	八四	四		
急性腸炎	六	二		六	二		八	六	七		
其他ノ栄養病	九	九	一	九	九	一	二九	一八	一六		
摘要											

備考

- 一 括弧内ハ總頁（白人）ニ対スル百分比
- 二 國籍別中其ノ他トナルハ白人ヲ示ス

十一月			十二月		
英	加	其 他	英	加	其 他
四三	一九	三	四三	一九	三
四	一		五	一	
七	三		一〇	三	

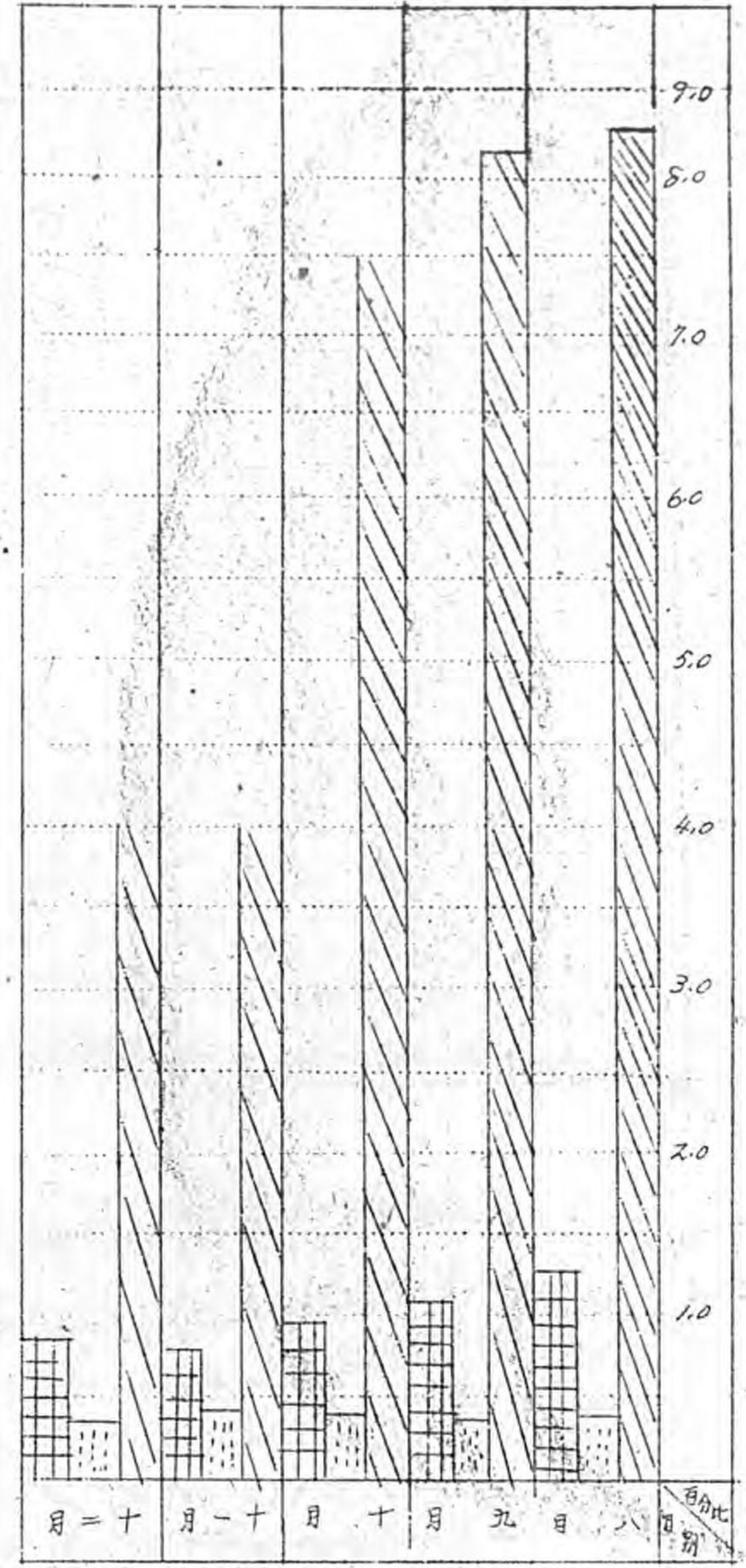
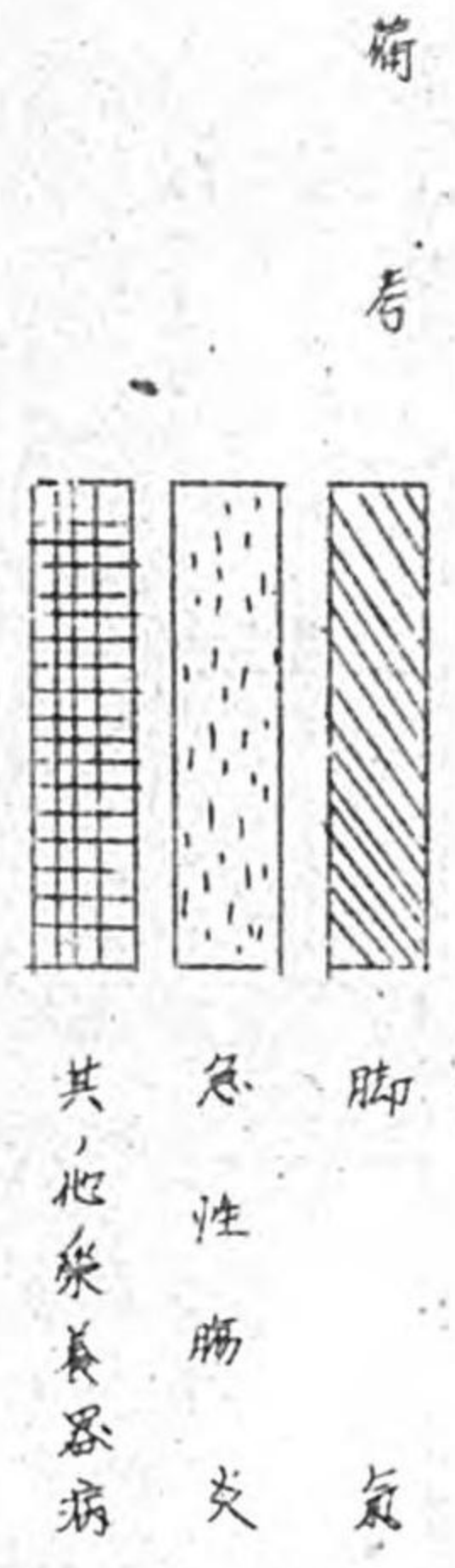
品名	單位					
	一月	九月	十月	十一月	十二月	合計
肝油	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三、〇〇〇
ビタミンB ₁ 末	一、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—	七、五〇〇
ビタミンB ₂ 錠	八、〇〇〇	二、〇〇〇	—	一、〇〇〇	一、二〇〇	一二、二〇〇
ビタミンB ₁₂ 液	三五〇	二〇〇	三五〇	三五〇	二五〇	一、四〇〇

附表第三

香港陸軍病院ヨリ受領セル存虜用藥物

四二四

四二四



附表第二 入院患者病類別統計表 (百分比)

四七四

附表第四

計	食油	茶	食塩	砂糖	香辛料	生野菜	冷凍魚	大豆	現地米	區分	数量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養分
	四〇	三	五	一五	五	五〇〇	一二〇	四	六〇〇	数量	六〇〇	三三・八	二二	四七二・〇	二〇三・一
										蛋白質	二一・九	一・一			
										脂肪	三・八	〇・六			
										含水炭素			〇・五		
										養分	六一・九	四六・二	五三・八	二・七五〇・九	

給養定量 (勞務ニ服スルモノ)

附表第五

計	食油	茶	食塩	砂糖	香辛料	生野菜	冷凍魚	大豆	現地米	區分	数量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養分
	四〇	三	五	五	一	三二四	六〇	三	四八〇	数量	三二四	三・六	〇・四	二二・八	一〇九・二
										蛋白質	一〇・九	〇・九			
										脂肪	一・四	〇・五			
										含水炭素			〇・四		
										養分	六一・九	四六・二	五三・八	二・七五〇・九	

給養定量 (勞務ニ服セサルモノ)

昭和二十年三月二十六日

停房情報局長官殿

外務省在歐國居留民關係事務室

鈴木公使

香港ニ於ケル停房ノ保健及衛生ニ関シ英國政府申出ノ件

昭和十九年十一月二十一日附居普第七六六號ヲ以テ既ニ照會致シ置キタル本件ニ関シテハ
香港停房收容所長ヨリ貴長官宛報告香港停房情報第一一號ニ基キ別添口上書案ノ如ク回答致シ
度存居ル處右ニテ差支ナキヤ折返シ何分ノ儀御回示相成此致依頼申進ス

在京瑞西公使館宛口上書案

帝國外務省ハ瑞西公使館ニ付シ一九四四年十一月十三日附口上書CC一・三・六EQニ関シ左
記通達スルノ光榮ヲ有ス

帝國公使館ハ瑞西公使館ニ付シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

記

一 香港停房收容所ニ於テハ「ビタミン」缺乏症防止対策トシテ左ノ措置ヲ講シツツアリ

(1) 毎月定期的ニ在香港帝國陸軍病院ヨリ停房用藥物ヲ受領シツツアリテ毎月「ビタミン」

「B」ホ、同「B」液、同「B」錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シマリテ患者ノ治療ニハ遺憾

ナキモノト認ム

(2) 現在停房ハ最高ニ「七七六」カロリー「最低」ニ「〇七一」カロリー「給與」ヲ受ケ毎月

二回差入ヲ許サル

勞務者ハ勞賃費ニテ停房酒保ヨリ錠詰「牛肉、魚肉、野菜、豆等」ヲ購入シ得

野菜自營栽培及養鶏、養豚ニヨル收穫量相當アリ

以上ニテ栄養上ハ充分ナリ

(3) 毎朝約三十分必ス保健体操ヲ實施シ戶外遊戯散步入浴等ヲ奨励シマリテ保健状態ハ
良好ナリ

(二) 石ノ結果トシテ同所ニ於ケル一九四四年八月以降、ビタミン_B缺乏症ノ種類別(脚氣、腸炎等)各國人別患者一覽表附表第一ノ第一ノ如クシテ新患ニツキテハ脚氣患者ハ最低。一八%ヨリ最高一。〇%ノ間ヲ上下シツツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇。一五%ヲ出テス急性腸炎ハ一%前後ニシテ其他ノ營養器病ニアリテハ一%以下ニ止レリ

尚入院患者ニアリテハ脚氣ハ最高八。一九%ヨリ最低三。八四%ニシテ漸減シツツアリ急性腸炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ營養器病ニアリテハ一。七%以下ニシテ何レモ漸次減少シツツアリ

(香港情報第一ノ一號附屬ノ附表第一、第二略)

(瑞西公使館ニ出入場合ハンノ附表ヲ貼附ノコト)

存匿第三號

香港ニ於ケル存虜ノ保健及衛生ニ関シ英國政府申出ノ件

昭和二十年四月二十一日

存虜情報局長 官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木 公使 殿

昭和二十年三月二十六日附居秘第一七六號ニ依ル前題ノ件貴見ノ通ニテ差支無之但シ記一

ノ(イ)中ニ最低必要量ヲ受領シアリテレ_レヲ_レ必要量ヲ受領シアリテレニ訂正セラレ度

参照第八六〇號

一 盲目存虜ニ関スル件

昭和二十年四月十四日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局 殿

貴局宛弊書参照才六四七號、昭和十九年十一月十八日附及参照才七七二號昭和二十年二月二十五日附ヲ以テ左記激願仕候件御参照被下度候

左記

一 盲目存廢名簿ヲ国籍別、收容所名、及盲目トナリタル原因ヲ付シ壽府赤十字國際委員會宛電報ヲ以テ御通報相受ケタキ事

二 日本軍當局御管轄下ニ於ケル盲目存廢ニ對スル特別治療方法ニ関スル情報

三 日本軍當局ニ於テ示顯支障ナシト御考慮相成ル盲目存廢ニ関スル情報

四 英國政府ノ提議ニ係ル盲目存廢ニ對シ或ル特種ノ訓練、例ヘバ日本人盲目者ニ對シ按摩術ヲ習得セシムルガ如キヲ實施スル件

以上

本代表部ガ只今入手仕候通知ニ依レバ英國政府ハ前記情報以外ニ左記ニ関スル存廢名簿ヲ可及的速ニ電報ヲ以テ壽府委員會宛御通報方依頼越候

(イ) 視カフ一時的損シ居ル者及其程度、原因附記サレタシ

(ロ) 視カラ永久的且ツ不治的ニ損シ居ル者及其程度、原因附記セラレタシ

右名簿ハ国籍及收容所別ナルコト

英國政府ニ於テハ多数ノ存廢ガ「ジイタミン」不足ニ起因シテ眼病ヲ病ヒ居ルコトヲ認知セルモノ、如ク且又存廢ヨリノ通信中少ナクトモ或者ハ視カラ非常ニ害シ不治的ニ損シ居ル旨通報ナシ居ルモノ、如 御座候

以上

存給才ニ四號

盲目存廢ニ関スル件、回答

昭和二十年四月二十八日

存廢情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

四月十四日附参照才八六。號ニ依ル旨題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニテハ「ジイタミン」缺乏ニ因ル失明存廢ナキニ付承知相成度

居秋才ニ一〇號

昭和二十年四月廿日

外務省敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

矢明俘虜及「ビタミン」缺乏ニ依リ視力ヲ冒サレタル
俘虜名簿入手方ニ関スル件

本件ニ関シ瑞西公使館ヨリ別紙寫ノ通り矢明俘虜及「ビタミン」缺乏ニヨリ視力ニ障害ヲ
受ケ矢明同様トナリタル俘虜名簿ノ入手方申越アリタルニ付テハ委細右ニテ御了知相成御
取調ノ上何分ノ儀御回示相成度此致依頼申進ス

一九四五年四月六日附外務省宛瑞西公使館

口上書 CC一五二〇 FGC

日本権力下ニアル矢明俘虜ニ関スル累次ノ通報ニ関シ瑞西公使館ハ帝國外務省ニ對シテ英
國政府ハ最近ノ通報ニ於テ此等俘虜名簿ヲ入手致度希望ヲ表明セルコトヲ通報スルノ光榮

ヲ有ス

尚英國政府ハ「ビタミン」缺乏ニヨリ一時的ニ視力ヲ冒サレタル相当數ノ俘虜カ極東ニア
ルコトヲ指摘セリ然ル處中ニハ甚ク憂フヘキ状態ニ於テ冒サレ居リ其中ノ數名ハ永久ニ矢
明スルニ至ルヘシト認メラル。英國政府ハ此等俘虜名簿モ亦同様ニ承知致度同政府ハ特ニ
香港ニハ對シテモ本件ニ関スル俘虜ニ名アルコトヲ指摘セリ
瑞西公使館ハ英國政府ニ其ノ要求スル情報ヲ供給シ得ル様帝國外務省ニ依頼スルト共ニ此
ノ機會ニ並ニ重ネテ敬意ヲ表ス

仔給才ニ三号

矢明俘虜及「ビタミン」缺乏ニ依リ視力ヲ冒サレタル俘虜名簿
入手方ニ関スル件回答

昭和二十年四月二十八日

俘虜情報局長官

外務省敵國留民間係事務室

鈴 水 公 使 殿

四月十日附居取才ニ一。号ニ依ル首題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニハ「ビタミン」缺乏ニ
ル失明存虜ナキニ付承知相成度

参照第一。五ニ號

譯 文

一 盲目存虜ニ関スル件

昭和二十年七月二十八日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局 殿

標題ノ件ニ関スル貴局宛弊書昭和十九年十一月十八日付参照才六四七號昭和二十年二月

十五日付参照才七七ニ號及同年四月十四日付参照才八六〇號ニ関シ更ニ壽府委員會ヨリ
報ヲ以テ曰木軍御當局ニ於テ右ニ對スル御取扱ヒ方御決定相成候ヘバ其趣キ御通知方
致シ末リ申候

右壽府来電中ニ壽府委員會ハ該問題ニ對シ非常ナル関心ヲ有シ居ル旨表示致シ居リ候ニ
何卒至急御回答被成下候ハバ奉謝候

回 答

各收容所ニ收容シアル失明(完全)存虜人員當局ニ通報セラレアルヲ以テ之カ收容所名
人員ヲ通報且待遇ニ関シテハ附添人ヲ附シ充分保護シアリ附與スヘキ特異ナル技術ニ関
テ目下ノ処考慮シアラス

譯 文

参照才七七ニ號

一 盲目 存虜ニ関スル照會ノ件

謹啓陳者貴局宛弊書一九四四年十一月十八日附參照第六回七號御參照被下度御願申上候
右ニ関聯シ只今壽府委員會ヨリ電報ヲ以テ右記事項御電通方懇請致末リ申候

左記

一 永久的(不治)盲目 存虜ノ國籍別存虜名簿特ニ香港及其他ノ地域ニ於ケルモノ
二 右名簿ニハ盲目トナリタル原因附記願上候

右御調査被成下候ヘハ誰有奉深謝候而シテ前ニ弊書參照才六四七號ヲ以テ御願申上候件及
此ノ新シキ歎願ニ對スル貴局ヨリノ御回答ヲ期待仕候

尙前記壽府末電ニ依レバ同委員會ニ於テハ特ニ香港存虜收容所内矢 G. R. Bickley
認識卷號 7263368ニ関スル明細御通知被成下候事ニ對シ関心ヲ有シ居ル旨申越候

本代表部ハ右ニ對スル貴局ヨリノ御回答ヲ関心ヲ以テ期待仕リ候

昭和二十年二月二十五日

赤十字國際委員會駐日代表部

敬 具

一三四外

存虜情報局殿

譯文

參照第一。九七號

一 盲目 存虜ニ関スル件

昭和二十年八月二十二日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局殿

貴翰一九四五年四月二十八日附存救才ニ四號難有落手仕候

同貴翰ハ漸ク七月三十一日日本代表部ニ於テ入手仕申候

右貴翰ニハ貴局弊書參照才八六〇號ニ對スル最後項目ニ對スル御回答ノミテ甚ダ残念ニ存
候改ニ此ノ機會ニ壽府委員會可及的速ニ御回答ヲ希望仕候件ニ関シ御記憶ヲ喚起スル意

味ニ於テ左記ノ通再提出仕候

左記

寄府委員會へ打電仕候必要上左記御回答願上候

一 盲目俘虜名簿國籍別收容場所及盲目トナリタル原因

二 俘虜名簿但シ一時的視カヲ多樣ナル角度ニ容セル者ニシテ其ノ者ニ関スル國籍別收容場所及其原因

三 俘虜名簿但シ永久的且ツ治療ノ見込キ點キ迄ニ多樣角度ニ容セル者ニシテ其國籍別收容場所及原因

四 盲目俘虜特色治療ニ関スル資料

五 英國政府ヨリ提議セル特種技能例へバ盲目日本人ニ按摩ヲ取扱スルカ如キ方法ヲ実施セラレアルマ

六 右ノ外ノ資料ニシテ盲目俘虜ニ関シ日本軍当局ニ於テ御示願願ヘルモノ以上

一三四内

俘虜第四八號

盲目俘虜ニ関スル件回答

昭和二十年八月三十一日

俘虜情報局 氏官

赤十字國際委員會

駐日代表 殿

昭和二十年八月二十二日附参照第一。九七號ヲ以テ承照首題ノ件左記ノ通り回答ス

左記

一 第一、二、三項ニ関シテハ別紙連名簿ノ如シ

二 第四項ニ関シテハ醫療用トシテ肝油、ビタミン劑ノ増加給與及義眼、眼鏡ヲ使用セシメアリ

三 第五項ノ特種技能修得ニ関シテハ特ニ考慮シアラス

四九一

四九〇

参照才八一ニ號

- 一、俘虜軍医ニテ俘虜收容所内ニ於テ専門医トシテ従事スル者ニ対シ證明書交付ニ関スル件

謹啓陳者

俘虜收容所及又ハ俘虜病院ニ於テ一ヶ年以上経験ヲ有スル専門医トシテ仕事ニ従事セル者キ俘虜軍医ノ爲メニ證明書ヲ発行スル件ニ関シ壽府赤十字國際委員會ノ提議ヲ茲ニ御通知申スル光榮ヲ有候 斯カル専門医トシテノ證明書ハ所持者カ後日歸國仕候節非常ニ有益ナルモノニ御座候此ノ方法ハ英領印度ニ於ケル伊太利人俘虜間ニ開始サレ非常ナル稱讚且感謝致サレ居申候

壽府委員會ノ提議ハ下記通りニ御座候

即チ關心ヲ有スル俘虜軍医ハ收容所側ノ收容所軍医ノ發行ニ係ル證明書ニ收容所先遣俘虜

中斷

一三五半

軍医カ裏書キシタル原書ヲ受領ス、其高一通ハ收容所當局ニ於テ保管サレ、一通ハ先遣俘虜軍医ニ手交シ尚一通ヲ壽府赤十字國際委員會ヘ送達ノ爲メ同委員會代表部ヘ御送附相受クルモノニ御座候

数年間收容サレ居候多数ノ若キ軍医ニトリ非常ナル利害關係ヲ有スル前記長議ヲ御研究ナシ被下候ヘバ壽府委員會ノ最モ感謝仕ル次才ニ御座候本代表部ハ前記長議ニ対スル貴局ノ御受諾如何ニ対シ關心ヲ持チ待望仕居候

昭和二十年三月九日

敬 畏

赤十字國際委員會

駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘虜第二一號

俘虜軍医中俘虜收容所内ニ於テ専門医トシテ従事スル者
ニ對シ證明書交付ニ関スル件

昭和二十年四月十八日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

三月九日附参照字八一ニ號ニ依ル首題ノ件ニ関シ當局ニ於テハ烏シ得ル範圍ニ於テ便宜ヲ
與フルコト差支ナキニ付承知相成度

俘虜ニ関スル抗議ニ関シ俘虜情報局及俘虜管理部が處置シタル
事柄ヲ記録シアル書類ノ寫シ

件

名

件

数

- 一、俘虜ノ取扱(待遇)ニ関スル事項 三六
- 二、俘虜個人ノ待遇ニ関スル事項 七
- 三、俘虜ノ懲罰ニ関スル事項 四
- 四、俘虜ノ通信ニ関スル事項 八
- 五、災害俘虜ノ救恤ニ関スル事項 一
- 六、救恤品補給ニ関スル事項 二
- 七、給與ニ関スル事項 七
- 八、衛生ニ関スル事項 八

外一

一、俘虜ノ取扱(待遇)ニ関スル件

年月日	抗議事項	未輸先	摘要
一九一九	俘虜ノ取扱振リニ對スル米國政府ノ抗議文送付ノ件	瑞西國公使館	東京及大阪收容所
二〇二二	川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ對スル米國政府抗議送達ノ件	同	川崎收容所
一九三四	俘虜ヲ公衆ノ好奇心ヨリ保護方ノ件	同	横濱收容所
一八八七	大阪俘虜收容所ニ関シ米國政府ヨリ申出ノ件	同	大阪及神戸收容所
一八三一	善通寺收容所ニ差入ノ書籍雜誌ニ関スル件	同	善通寺收容所
一九二四	俘虜ノ取扱ニ對スル英濠兩政府ノ抗議ニ関スル件	同	恭「ビルマ」收容所

内ニ

一八三三	京城及仁川收容所改善方ニ付瑞西公使館ヨリ申出ノ件	瑞西國公使館	京城及仁川收容所
一八三三	善通寺收容所改善方ニ関シ瑞西國公使館ヨリ申出ノ件	同	善通寺收容所
一九六三	「ビルマ」及恭ノ俘虜待遇ニ関スル件	赤十字國際委員會委員長	「ビルマ」及恭收容所
一九七四	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	瑞西國公使館	「ビルマ」收容所
一九〇二	「ビルマ」ニ於ケル印度人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
一九二五	「ビルマ」ニ於ケル俘虜訊問ニ関スル件	同	同
一九一八	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
二〇一三	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
二〇三九	在「ビルマ」英國人俘虜ニ對スル取扱ニ関シ英	同	同

年月日	議事項	未翰先	摘要
一九二四	國政府申出傳達ノ件 在西貢米人俘虜ノ取扱ニ關スル件	瑞西國公使館	西貢收容所
二〇三三	比島ニ於ケル俘虜待遇ニ關シ米國政府抗議ノ件	同	比島收容所
一九五九	上海ブリッヂハウス監獄ノ英國人取扱ニ關スル件	同	上海
二〇一六	俘虜收容所ノ地位及之カ防空施設ニ關スル英國側ノ申出ニ對スル回答ニ關スル件	同	台灣、東京收容所
二〇三二	〃	同	全報
二〇四三	英國政府ノ一九四四年六月赤十字國際委員	同	台灣收容所

四九八

外二

一八九七	會報告ニ基ク台灣俘虜收容所ニ關スル抗議傳達ノ件 昭南「チャンギ」抑留所ノ待遇ニ關シ英國政府ヨリ申出ノ件	瑞西國公使	「チャンギ」抑留所
一九一〇	在佛印米支俘虜取扱ニ關スル件	赤十字國際委員會	西貢收容所
一九二五	帝國権内ニ於ケル俘虜及抑留者ノ待遇ニ關スル米國政府抗議送付ノ件	瑞西公使	全報
一九五八	一九四二年十二月二十三日附対日抗議ニ對スル回答ノ件	全報	全報
二〇四七	「ニューギニヤ」アイタベニ於ケル米國人飛行士ニ對スル取扱ニ關シ米國政府抗議ノ件	瑞西國公使館	「ニューギニヤ」

四九九

年月日	抗議事項	来翰先	摘要
二〇、四、七	西南太平洋諸島ニ於ケル印度人俘虜取扱ニ関シ英國政府抗議ノ件	瑞西國公使	西南太平洋諸島
二〇、八、三	在「スマトラ」抑留者ノ取扱ニ関シ英國政府申入ノ件	瑞西國公使館	「スマトラ」抑留所
一九、三、三〇	台湾俘虜收容所ニ関シ英國政府申出ノ件	同	台湾收容所
二〇、六、二	死亡俘虜ノ死体處理ニ関シ英國政府申越ノ件	瑞西國公使	東京收容所
一八、八、三〇	泰俘虜收容所ノ俘虜取扱ニ関スル件	同	泰收容所
一八、一〇、七	「タイ」俘虜收容所ノ待遇ニ関シ英國政府ヨリ重ネテ抗議ハ件	瑞西國公使館	同
二〇、七、五	「タイ」國ニ於ケル俘虜ノ取扱振ニ對スル米國	同	同

五〇六

内ニ

一九、二、一	政府ノ抗議文送付ノ件	瑞西公使館	全般
一八、八、一〇	家族抑留者同居措置ニ関スル件	瑞西國外務省	全般
一八、九、二	抑留船員ノ待遇ニ関スル件	羅馬法王庁使節	函館、東京、大阪、福岡
	加特力教徒タル俘虜ノ爲最後ノ聖餐ニ神父立会方ノ件		

二、俘虜個人ノ待遇ニ関スル事項

年月日	抗議事項	来翰先	摘要
二〇、八、二	英國人俘虜陸軍少佐 William M. Stewart, R.A.M.C.ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

五〇一

年月日	抗議事項	発輪先	摘要
一九二一	大阪俘虜收容所收容中ノ英人「スミス」及「ウィリアムス」ノ取扱方ノ件	瑞西國公使館	大阪收容所
二〇一五	陸軍大將 Mc Lane ノ身分ニ関スル件	駐日代表部	俘虜情報局
一九九八	上海俘虜收容所ニ於ケル五名ノ英國人俘虜ノ取扱ニ関スル英國政府申出ノ件	瑞西國公使館	上海收容所
一九二二	米國汽船「スタンザアカルカッタ」及「ダブリューエフ・ハムフレイ」号及「アウスト」号乗組員ニ関スル照会ノ件	同	東京大阪福岡馬末 爪哇收容所
一八二六	目下京城俘虜收容所ニ收容中ノ濠洲赤十字社代表 Richard Phillips ノ身分ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

五〇二

頁

一八七四 宗職ニ從フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件
赤十字國際委員會 全般

外三

三 俘虜ノ懲罰ニ関スル事項

年月日	抗議事項	発輪先	摘要
二〇六三	在朝鮮英國人俘虜ノ處罰ニ関スル件	瑞西公使館	朝鮮收容所
一九九	於西貢刺殺俘虜ニ関スル件	同	泰俘虜收容所
二〇二二	函館俘虜收容所ニ於ケル英國人俘虜處罰ノ件	同	函館俘虜收容所
外務省 二〇一六	元香上銀行理事長「グレイバーン」ノ取扱ニ関スル件	同	香港俘虜收容所
外務省 二〇一五 二〇一四 一九七三	ル件		

五〇三

四、俘虜ノ通信ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一七、三、二	英國政府ヨリ俘虜及抑留者發受ノ書翰送達業務設置方申立ニ関スル件	アルゼンチン國 在京代理大使	全報
一八、一、三	在香港加奈陀人俘虜ニ対スル郵便物配布ニ関スル件	瑞西國公使館	香港俘虜收容所
外務省 一九、二、三	台湾ニ於ケル俘虜及抑留者ノ通信ニ関スル件	同	台湾俘虜收容所
一九、二、九	日本ノ手中ニ在ル俘虜宛通信ニ関スル件	赤十字駐日代表部	全報
一九、六、四	極東米國行郵便物ニ関スル件	同	同
外務省 一九、四、四	俘虜抑留者郵便ニ日附記載許可方ニ関スル件	瑞西公使館	同

内三

五、災害俘虜ノ救恤ニ関スル事項

一九、二、一八	東亞國內ニ於ケル俘虜抑留者宛郵便物ノ件	赤十字駐日代表部	全報
一九、三、三	在舊蘭印俘虜及非戦闘員抑留者並ニ在「タイ」國俘虜ノ通信ニ関スル件	瑞西國公使館	スマトラ ジャバ 俘虜收容所

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
外務省 一九、三、三	勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ対スル賠償ノ件	瑞西國公使館	全報

六、救恤品補給ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一七、九、二五	米國人俘虜及抑留者ニ対スル救恤品補給ニ 関スル米國政府ヨリ申入ノ件	瑞西國公使館	全般
一七、一〇、二	瑞典赤十字社ヨリ申出ノ比島抑留米人ニ対 スル救恤金送付許可ニ関スル件	瑞典國公使館	比島俘虜收容所

七、給與ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
-----	------	-----	----

一七、三、一五	將校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ 関スル件	瑞西國公使	全般
一七、四、一八	〃	同	同
一七、五、一	在英國抑留人ノ給與等ニ関スル英國政府ノ 申出ノ件	亞爾然丁國大使	同
一七、五、一	俘虜ノ俸給ニ関スル英國政府申入ノ件	同	同
一七、五、九	米國政府ノ俘虜將校俸給特別協定締結方申 入ノ件	瑞西國公使	同
一七、六、三	俘虜ノ金錢收入ニ関スル米國政府ノ提案ニ 関スル件	同	同
一七、八、三	俘虜及抑留者ノ勞務賃金ニ関スル米國政府	同	同

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一八六七	ノ提議ニ関スル件 俘虜ノ本國送金ニ関スル件	駐日代表	全般
一八三九	英國人俘虜ニ対シ食糧改善方申出ノ件	瑞西國公使館	同
一九二三	俘虜及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件	駐日代表部	同
一九五五	俘虜タル和蘭陸軍中將「テイバッカー」ニ対シ俸給支給方ノ件	瑞西國公使館	台灣收容所
一九八三	俘虜タル英國商船員ニ対スル告知傳達方ノ件	同	全般
一九七八	俘虜ノ預金ヲ日本支配下ノ近親者宛送金ニ関スル件	駐日代表部	台灣收容所
二〇四六	英國人俘虜ニ支拂ハレル給料ノ件	同	同

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一九三六	元「ダラム」島其他ニ就勸セルノ國人非戦闘員ニ対シ給與規定傳達方ニ関スル件	瑞西國公使館	東京、大阪、神戸、普通、奇、福岡及上海收容所
二〇八三	帝國権内ニアル俘虜抑留者ノ給養ニ関シ米國政府申越ノ件	同	全般
一八二五	川崎、横浜、神奈川、俘虜收容所改善方米國政府ヨリ申入ニ関スル件	同	川崎、横浜、神奈川收容所

八 衛生ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一八二五	東京俘虜收容所内加奈陀人俘虜 RSM OSCAR CHARLES KEENAN, H6001 ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一九五二	上海俘虜收容所ニ於ケル五名ノ英國人保護人員ノ取扱ニ關スル英國政府申出ノ件	瑞西國公使館	上海收容所
一九一三	俘虜ノ保健衛生ニ關シ英國政府ヨリ申出ノ件	同	香港收容所
二〇二五	盲目俘虜ニ關スル照會ノ件	駐日代表部	特ニ香港及其他ノ地域ニ於ケルモノ
二〇四六	失明俘虜及「ビタミ」缺乏ニ依リ視力ヲ冒サレタル俘虜名簿入手方ニ關スル件	瑞西國公使館	〃
二〇四四	盲目俘虜ニ關スル件	駐日代表部	〃
二〇七六	盲目俘虜ニ關スル件	同	〃
二〇八三	盲目俘虜ニ關スル件	同	全般
二〇三九	俘虜軍医ニテ俘虜收容所内ニ於テ専門医トシテ從事スル者ニ對シ證明書交付ニ關スル件	同	同

五〇

外三

一八七四 宗職ニ從フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件

赤十字國際委員會 全般

三、俘虜ノ懲罰ニ關スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
二〇六三	在朝鮮英國人俘虜ノ處罰ニ關スル件	瑞西公使館	朝鮮收容所
一九九九	於西貢刺殺俘虜ニ關スル件	同	泰俘虜收容所
二〇二二	函館俘虜收容所ニ於ケル英國人俘虜處罰ノ件	同	函館俘虜收容所
外務省 二〇一六	元香上銀行理事長「グレイバーン」ノ取扱ニ關スル件	同	香港俘虜收容所
外務省 二〇一五 （一九七三）	〃	〃	〃

五〇三

1802

Proj. No.	218
S. A. No.	
Sack No.	
Item No.	2 duplicates

俘虜ニ関スル抗議ニ関シ俘虜情報^局及俘虜管理部カ
 處置シタル事柄ヲ記録シアル書類ノ寫

俘虜情報局

尾普通令第二六〇號

昭和二十年六月二十六日

外務省在歐同盟留兵團隊事務室

鈴木公次

得勝情報局長官殿

得勝ノ取扱振リニ対スル米國政府ノ抗議文ニ付ノ件

今般在本邦瑞西国公使館ヨリ得勝ノ取扱振リニ付スル米國政府ノ帝國政府宛抗議文ヲ移送越シタルコト付委細ハ別紙訳文ニ依リ御了悉ノ上先方ニ対スル回答振脚回示相願度

本信送付先 陸軍省軍務局長 得勝情報局長官

(一九四四年六月九日附外務省宛在輕井沢瑞西國公使館

口上書取訳

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ左記通牒ノ日本國政府宛送達方米國政府ヨリ依頼アリタル旨申進スルノ光榮ヲ有ス

米國政府ガ信憑スヘキ筋ヨリ得タル情報ニ據レハ日本ニ拘留セラレ居ル米國人俘虜ハ依
戰行動ニ直接関係アル労働ニ過度ノ時間ニ亘リ従事セシメラレ居ル由ナリ 彼等ハ呂川
取河岸東京灣岸海軍「ドック」及呂川要塞内ニ於テ強制的ニ労働セシメラレ居レリ 東
京及大阪西地ニ於テ彼等ハ屈辱ト肉体的苦痛ヲ齎ス極端ニ苛酷ニシテ峻嚴ナル制度ノ下
ニ置カレ且殴打ヲ以テ臨ム看守兵ノ残酷ナル取扱ヲ受ケ居レリ 米國政府ハ日本政府ニ
對シ其ノ手中ニ在ル米國人俘虜ノ待遇振ニ付強硬ナル抗議ヲ提起ス 右待遇ハ日本政府
カ自發的ニ其ノ拘留中ノ米國人俘虜ノ待遇ニ付之カ條項ノ適用方ヲ同意セル壽府俘虜條

一

約並ニ日本政府カ批准シ且西班牙國大使館ヨリ米國政府ニ移牒セラレタル一九四四年五
月三日附日本政府ノ覚書中ニテ同政府ニ於テハ非戦闘員拘留者及俘虜ノ取扱ニ際シ之ヲ
適用シ居ル旨申越シタル一九〇七年海牙條約ニ違反スルコト甚シキモノナリ 壽府俘虜
條約ハ第三十一條ヲ以テ俘虜ニ依リ爲サル、労働ハ依戰行動ニ直接関係ナキモノタルハ
キヲ規定セリ 又海牙條約ハ第六條ヲ以テ俘虜ニ依リ行ハル、労役ハ過度ナラサルヘク
且 戰爭行動ト關係ナキモノタルヘキコトヲ明記セリ 壽府俘虜條約第二條及海牙條約
第四條ニ於テハ俘虜ハ敵國政府ノ權下ニ屬シ之ヲ捕ヘタル四又ハ部隊ノ權下ニ屬スル
コトナク人道的待遇ヲ受クヘシト規定セラレ居レリ 米國政府ハ上述ノ事態カ直ニ改善
セラル、兼受取シ日本國政府及關係各個人ハ海牙條約及壽府俘虜條約規定カ米國々籍
俘虜ノ待遇上ニ於テ當時適用セラル、兼保障シ得ルニ於テハ其ノ責任ニ任スヘキモノナ

司政府ニ警告ス

本公使ハ茲ニ重ネテ外務省ニ向ツテ敬意ヲ表ス

俘給第三九號

俘虜取扱振リニ対スル米國政府ノ抗議ニ関スル件回答

昭和二十年七月二十日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

昭和二十年六月二十六日附居普通令第二六〇號ヲ以テ致会アリタル首題ノ件ニ関シ当局ニ於テ調査セル結果米國政府ヨリ指摘シ来レルガ如キ労務ニ関セシメタル事實ヲ認メズ、追テ如斯情報ハ如何ナル根據ニ基クモノナリヤ出所ニ関シ調査方取計相成度

外二

居普通第一三二號

昭和二十年三月八日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

俘虜情報局長官殿

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ対スル米國政府抗議送達ノ件

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ関シ在京瑞西國公使館ヨリ二月二日附口上書ヲ以テ別添同口上書仮訳ノ通り米國政府ノ抗議ヲ申越シタルニ付、ハ委細右ニテ御了承ノ上、当方ノ之ニ対スル回答振リニ関シ何分ノ儀至急回答相成度此段依頼申進ス

本信送付先 陸軍軍務局長

一九四五年二月二日附外務省宛在京瑞西公使館口上書

C. C. 一五四一 F G C 取談

瑞西公使館ハ帝國外務省ニ対シ米國政府ハ日本國政府ニ対シ左記通告ヲ依頼越シタル趣通
報スルノ光榮ヲ有ス

公使館ハ外務省ニ本作抗議ニ対スル帝國政府ノ回答ヲ通告マランコトヲ依頼シ此ノ機会ニ
於テ重ネテ外務省ニ教意ヲ表ス

記

米國ハ俘虜收容所川崎支所第二號ニ收容セラレ居ル米國俘虜ニ対シ与ヘラレ居ル待遇ニ関
シ重大ナル関心ヲ有ス 彼等ノ受ケ居ル待遇ハ日本國政府カ俘虜ノ待遇ニツキ適用シツ、
アリト繰返シ主張シ来レル俘虜ニ同スル壽府條約ノ國際的ニ設定セラレクル人道的標準ニ
明ラカニ抵触ス 同政府ハ俘虜ノ收容セラレ居ル建物ハ單ニ不適當ニ保温セラレ居ルノミ
ナラス建物ノ窓ハ一部木板ヲ以テ覆ハレ居ルヲ以テ採光通風共ニ遮断サレ居ル旨ノ信憑ス

キ報告ヲ受ケタリ 俘虜條約第十條ハ俘虜ハ出未得ル限り衛生及保健ノ保證ヲ与ヘ得ル
建物ニ收容セラルヘキコト並ニソノ宿泊所ハ充分ニ保温及照明セラレサルヘカラサルヲ
ヲ規定ス 又米國政府ハ病者ノ治療ニ欠クヘカラサル藥品、麻酔劑、繃帶及膏藥カ十分ナ
ラス且必要ナル外科医察設備ニ欠クル如アル旨ノ報告ヲ受ケタリ 收容所ニ於ケル重症患
者カ事故ニヨル傷害ヲ治療スル必要ニモ繼ミ禁劑ト外科設備ノ不足ハ人命ヲ危殆ナランム
ルモノナリ 第十四條ハ各收容所ハ俘虜ノ必要トスルアラヌル性癩ノ手当ヲ受クヘキ義務
室ヲ有スヘキコトヲ規定ス 米國政府ハ更ニ又昨晨日ハ俘虜ニ対シ最不規則ニ与ヘラレ居
ル旨ノ報告ヲ受ケタリ 第三十條ハ俘虜ハ毎週連続二十四時間ノ休養カ与ヘラルヘキ旨明
白ニ規定ス 而シテ最後ニ米國政府ハ公平ナル取調カ有罪ヲ確定スル以前ニ懲罰カ俘虜ニ
与ヘラレ而モソノ懲罰ハ苛酷ニシテ徹底的ナルモノナルコトノ報告ヲ受ケタリ 第四十六
條ハ特に冰刑ヲ禁止ス 懲罰手段トシテ勞働條件ノ加重ハ第三十二條ニヨリテ禁止セラル
第五十九條ノ規定ニヨリ懲罰ハ收容所長トシテ懲罰権ヲ有スル將校ニヨリテノミ与ヘラル

ヘキモノナリ。米國政府ハ前記米國俘虜ノ待遇ニ対シテ抗議シ事態ヲ矯正スル爲速カニ措
置セラルヘキコトヲ要求ス。同政府ハ更ニ此等ノ不法行爲ヲ匡正スヘク諄セラレタル措置
ノ報告カ本政府ニ通報セラルヘキコトヲ要求ス。

以上

俘虜第二〇號

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ対スル米國政府抗議ニ因スト

昭和二十年四月十日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

昭和二十年三月八日附居普通第一三二號ニヨル米政府首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

帝國ハ俘虜待遇條約ニハ拘束セラレサルモ人道ニ基キ急シ得ル限り良好ナル取扱ヒヲ爲シ
アリ

居普通第一一二號

昭和十九年三月十四日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

俘虜情報局長官殿

俘虜ヲ公衆ノ好奇心ヨリ保護方ノ件

今般在京端西國公使館ヨリ別紙英文ノ通横決ニ於ケル俘虜カ公衆ハ面前ニ於テ道路清掃ノ

如キ侮辱的勞働ノ強制並ニ身体検査ヲ受ケ居レリトノ抗議アリタルニ付悉細右ニテ御了知
ノ上本件可答振ニ因シ何分ノ儀御回示相取度

別紙

三月四日附在京瑞西国公使館口上書取文

瑞西国公使館ハ帝国外務省ニ対シ外交団員中ヨリ得タル信用スヘキ待遇ニ依リ横濱ニ於ケ
ル停留カ公衆ノ面前ニ於テ侮辱的勞働(例ハ道路ノ清掃)ヲ強制セラレ居ル旨ヲ通告ス
ルノ光榮ヲ有ス

公使館ハ庚ニ停留ハ其ノ勞働終ヲシ彼等ノ宿舍ニ復帰スルニ際シ公衆ノ面前ニ於テ日本兵
ニ依リ日中何等カノ武器ヲ獲得セリヤヲ確ムル爲身体検査ヲセラル、旨聞込ニテ其ノ状景
ハ毎日通行人殊ニ兒童ノ面前ニ於テ行ハル

公使館ニ於テハ右ハ横濱停留所長ノ誤解ニ基クモノナルコトヲ確信ス 停留ノ所通ニ

開スル一九二九年七月二十七日ノ條約第ニ條ニ明確ニ定メラレタル通停留ハ「公衆ノ好奇
心ニ対シテ特ニ保護セラレヘシ」ル彼等ハ人河トシテノ体面ヲ損セシメラルヘキニ非ス 公
使館ハ依而外務省ニ対シテ事情ヲ日本軍当局ニ報知シ其ノ結果帝國政府ニ於テモ必スヤ壽
府條約ニ抵触シ居ルコトヲ認メラルヘキ事案ヲ中止セシムル様訓令アリタル際ハ右ヲ公使館
ニ通報セラレシコトヲ懇請ス
公使館ハ外務省ノ斡旋ニ対シテ表謝傍茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

別紙 (二)

停留第一九號

停留取扱ニ関スル瑞西国公使館抗議ニ関スル件回答

昭和十九年三月二十日

停留情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公 侯 殿

三月十四日附居普通第一一三號來照首題ノ件左記ノ通り返ス

左記

- 一 俘虜ヲ侮辱ノ対象ト爲サ、ルコトニ關スル帝國政府ノ方針ハ法規ハ俘虜取扱規則第二條ニモ明示セラレアル所ニシテ本件ニ關スル瑞西國公使館ノ申出ハ原則的ニ異存ナシ但シ石ハ帝國カ俘虜待遇條約ニ拘束セラルモノニアラスシテ帝國道義ニ基クモノナルコトヲ該公使館ニ了解セシメ置カレ度
- 二 横次ニ於ケル事例ハ故意ニ俘虜ヲ侮辱ノ対象トセルモノニ非ルコト勿論ナルモ然レモ然レモ俘虜收容所宛通牒シ置キタリ

居普通第六八三號

昭和十八年九月八日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公 侯

俘虜情報局長官殿

大阪俘虜收容所ニ關シ米國政府ヨリ申出ノ件

本件ニ關シ米國政府ヨリ在米和瑞西國公使館ヲ通シ別紙英文ノ通申越タルニ付茲ニ通報申進ス

別紙

訳文

一九四三年八月二十七日

瑞西國公使館

帝國外務省 御中

瑞西國公使館、帝國外務省ニ対シ米國政府ハ大阪俘虜收容所問題ニ関シ左ノ通日本政府ニ
通報方依頼セラル旨申進スルノ光榮ヲ有ス

A、帝國政府ノ俘虜ノ待遇ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ停戦條約ヲ適用スル旨申進
セルニヨリ同條約第十條ニヨリ俘虜ヲ「衛生及保健ニ付出来得ル限りノ保証アル建物又ハ
仮建物内ニ宿泊セシムルノ責ヲ有ス 然ルニ築港及神戸ノ收容所ハ保健地帯ニ存在セザ
ルモノノ如シ 依テ米國政府ハ之等收容所内ノ人々ニ優良ナル住居ヲ供給サルコトヲ要

請ス

B、俘虜待遇條約第二十條ハ「一切ノ規則 命令、通告及公告ハ俘虜ノ了解スル國語ヲ以
テ通知セラルヘシ」ト規定ス

C、米國政府ハ俘虜ヲ捕獲ノ際所有シ居リタル金銀ハ円貨ニ両替セラレタル旨承知シ右兩
替ニハ所有者カ同意ヲ与ヘタルヤ否ヤ承知致シ度シ

D、米國ニ於ケル日本俘虜ハ每週二十四行ノ普通書信ニ通函書一葉及普通書信ノ約倍ノ行
數ノ業務用書信一通ヲ發送スルコトヲ許可セラレ居リ一月二十二日附及三月二十二日

附瑞西公使館公文參照)

米國政府ハ日本ノ権内ニ在ル米國俘虜ニ対シ同様ノ制度ヲ適用サレシコトヲ強ク要望
ス

E、前記條約第四條ニ依レハ信任者ハ保護國代表ト通信ハ無一切ノ便宜ヲ与ヘラルヘシ

F、同條約第十二條ニ依レハ被服、下着及靴ハ捕獲國ニ依リ俘虜ニ支給セラルヘシ 然ル

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...
十一、...
十二、...
十三、...
十四、...
十五、...
十六、...
十七、...
十八、...
十九、...
二十、...

俘虜第六節ノ三三

大阪俘虜收容所ニ關スル件回答

昭和八年九月十六日

俘虜情報局長官

外務省在歐国后留民間務事務室

鈴木公侯殿

九月八日附居普通第六八三番承照首題ノ件当方意見左記ノ通ニ付承知相成度

左記

一、大阪及神戸ノ俘虜收容場所ハ帝國ノ箱根、野井沢等ノ如キ保健地帯ニハアラス。然レトモ收容所ハ大阪市又ハ神戸市ノ郊中央ニ在リ同所附近ハ日本家屋ニ圍繞セラレ何等不健康地ニアラサルモノナリ。又收容設備ハ壯麗ナル建築物ト称スルハ得ナレドモ抑々俘虜ハ賓客ニ非ルヲ以テ現在建築物ヲ以テ充分ナリト恩料ス。何トナレハ俘虜收容所職員收容所内ニ居住シアルモ何等懸念スヘキコトナシ。

更ニ俘虜待遇條約ハ、虜ヲ成ルヘク不健康地ニ居住セシメサルコトハ記載シアルモ係
健地帯ニ居住セシムヘキコトヲ記載シアラズ

二、俘虜ノ所有貨幣ヲ帝國貨幣ニ西替シタルハ勿論俘虜ノ同意ヲ得クルモノナリ

三、日米兩國間ニ於ケル俘虜捕獲數ニ月雙ノ懸隔アルコトヲ想起スルトキハ其通信發送數

ヲ比較シ同日ノ數ヲ為スル當ヲ得サルノ甚クシキモノナリ而モ米國ノ許可シアルハ單

ナル形式的ノ通知ノミニシテ日本人俘虜ニシテ之ヲ利用スルモノ殆ト無カルヘク又日

本人俘虜ノ發送ニ依ル通信帝國ニ到達セルヲ通知セズ

四、俘虜ニ対スル被服給与ハ適正ナリ

五、俘虜ノ労働時間ハ日本人労働者ノ労働時間ヨリモ短ク又休日モ日本人労働者ヨリ多キ

現状ニ在リ 右ハ俘虜ノ衛生狀況ヲ顧慮セル結果ニシテ寧ロ米國政府ノ感謝ヲコソ受

クベキモノナリト思料ス

六、帝國ノ俘虜待遇條約採用振ニ關シテハ亦タニ米國政府ニ対シ不徹底ナルモノアリ此ノ

際更ニ徹底セシメラレ度

七、之ヲ要スルニ右米國政府ノ中入ハ過般瑞西國代表カ大阪俘虜收容所ヲ視察セル結果ニ

基クモノナルヘク同代表カ故意ニ事實ヲ歪曲シテ報告ヲ為スニ於テハ之ヲ陳謝セサル

限リ今後ノ俘虜收容所視察ヲ保留スヘキコトアルヘキ旨瑞西國公使ニ傳達相成度

居普通第ニ一八號

昭和十八年三月十一日

在敵國居留民關係事務室

持余全權公使 鈴 木 九 萬

俘虜情報寫長官殿

善通寺収容所ニ差入ノ書籍雜誌ニ関スル件

三井物産西國公使館ヨリ昨年四月二十二日同館代表者カ善通寺俘虜収容所訪問ノ際書籍ニ
三十三冊及雜誌多枚ヲ差入レ置キタルトコト週報同所訪問ノ際俘虜信任者ヨリ右書籍中九
十二冊ハ示メ俘虜ノ使用ニ供セラレサル旨申立アリタル趣ヲ以テ右至急収容所圖書室ニ備
付アリクニ旨及雜誌ハ配面セラレタルヤ承知シタキ旨申越シタルニ付御調査ノ上結果御回
示相度

善通寺師団經由

俘虜第八三編ノ四

瑞西國公使館ヨリ俘虜宛救恤ノ書籍類ニ関スル件

昭和十八年三月十三日

俘虜情報局長官

善通寺俘虜収容所長殿

首題ノ件ニ關シ瑞西國公使館ヨリ外務省ヲ通シ別紙字ノ通申入アリタルニ付参考ノ爲送付
ス

居普通合第三二四編

昭和二十年八月十七日

外務省在敵国居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ取扱ニ対スル英露西政府ノ抗議ニ関スル件

泰西及緬甸ニ於ケル俘虜ノ取扱並對送給糧洋元ニテ俘虜カ受テタル取扱ニ於テ英露西政
府カ提起スルタル抗議ニ関シ客年十二月二十七日附居普連合第九七三号ヲ以テ申述シ置キ
タル如ク般又在本邦瑞西國公使館ヨリ本抗議ニ對スル帝西政府ノ回答ヲ得タキ事ヲ知シタ
ルニ付テハ本件ハ尙御調査中トハ存セラレ、モ元方累次會談ノ次第ニテ下リ極力ノ儀至急御
回答相成様致度此段申進ス

本信送付先 陸軍省、俘虜情報局

別紙

一九四四年十二月四日附外務大臣宛瑞西國公使書翰取訳文

以書翰啓上致候 陳者、本使ハ閣下ニ對シ英國及濠洲西政府ハ本國政府ニ對シ日本國政府ニ
左記通牒ノ傳達方依頼セル旨申進スルノ光榮ヲ有シ候

九月十二日南支那海ニ於テ雷撃セラレタル日本運送船兼洋元ノ生存者濠洲人及英國人約百
五十名ハ濠洲及英國ニ到着セリ 下記ハ其ノ結果日本軍当局ノ英國人及濠洲人俘虜取扱
ニ関シ英國及濠洲西政府ノ得タル報告ノ簡單ナル要領ナリ

新嘉坡及「ジャワ」ニテ蒐メ得ル俘虜ハ總テ一九四二年早々緬甸又ハ泰國ニ移動セラレタ
リ 濠洲人ハ海路緬甸ニ移送セラレタルカ其ノ際彼等ハ船艙ヲ平面的ニ区画セル高サ四呎
以上ニハ達セサル天井ノ下ニ押込メラレタリ 英國人俘虜ハ鐵路泰國へ移送セラレタルカ

鋼鉄製家畜用貨車ニ詰メ込マレ旅中横ニナルコトモ出承サリキ 此ノ後彼等ハ約八十哩ヲ
步行セリ 全員泰國及緬甸ノ病毒瀰蔓セル原始「ジャングル」中ノ鐵道建設工事ニ送ラル
彼等ハ非人道的ナル生活及労働條件ノ下ニ置カレ其ノ設備タルヤ熱帯特有ノ雨又ハ暴烈ス
ル太陽ニ對シ殆ト又ハ全く用ヲ怠ワ、ルモノナリキ 衣服ハ破レ去ルモノ代リハ与ヘラレヌ

多數ノ者ハ間モナク衣服、靴及帽子モ無キ有様トナレリ、食物ハ小皿ニ盛リシ飯一抔ト小
量ノ水ツボキ「シチエー」ヲ日ニ三四回与ヘラレタルノミニシテ労働ハ俘虜ノ苦痛及生命ヲ

犧牲トシテ休土無ク強行セラレ、其ノ苦悶悉クハニ更ニ至ラズルハ、遂ニ難キトナリ、
其積累甚ニシテ、一ニ言ニテ、三ノ如ク、一ニ言ニテ、三ノ如ク、一ニ言ニテ、三ノ如ク、
シテカニ維持ニ至ルニ必至ラザルニ至リ、其ノ苦悶悉クハニ更ニ至ラズルハ、遂ニ難キトナリ、
候セリ。

救助セラレシ者ハ一九四四年九月早々新島及ニ出航セシ船ニテ、
州人俘虜一三〇〇名古船上ニテ、タルハ、船ヲ擧進セテ、タル船三艘ハ、
ク日本人生存者全部ヲ救ヒ上ケタルカ、俘虜ハ其ノ運命ノ終ニ救済セラレ、
ノ申立ツル所ハ、武器ナキ俘虜ニ対スル日本側ノ虐待ヲ明白ニ且疑フ余地ナク立証スルモノ
ナリ。

英国及濠洲西政府ハ其ノ俘虜ノ受ケタル非人道的取扱ニ対シ最モ嚴重ナル抗議ヲ提起致シ
候

尚本使ハ十一月十八日附鈴木公使宛半公信ヲ以テ英国情報ニ依レハ、英洋凡救出者ハ英国及

濠洲ニ到着シ、何國ハ、泰國及緬甸ニ於テ俘虜力受ケタリト云フ、
基キ公表ヲ行フベシト、同公使ニ対シ申達シ置キタル旨、附言致シ候
本使ハ茲ニ貴大臣ニ向テ敬意ヲ表シ候

居普通第一九二號

昭和十八年三月三日

在敵国居留民關係事務室

將余全權公使 鈴木 九 萬

俘虜情報局長官殿

京城及仁川收容所改善方ニ付瑞西公使館ヨリ申出ノ件

在平邦瑞西回公使館ヨリ同館代表者カ寧年十月十八・十九日京城及仁川ノ停房收容所ヲ
訪問シタル際在所停房ヨリ出来候々ハ座々通リ改善ヲリタキ旨陳述セリトテ之カ実現轉旋
方申越シタルニ何此緩衝通報申進ス

一、旅費

冬着及冬下着ヲ有セス臨寒ニ甚ヘ得ナル者若干アリ

二、仁川收容所ノ齒科手当

齒科手当ヲ受ケ居ラス 同所ニハ齒科医居ルヲ以テ必要ナル療養及藥劑ヲ与ヘラルレ
ハ齒單ニ治療ヲ爲シ得

三、酒 保

多種多量ノ啤酒ヲ備フル酒保ヲ西收容所ニ設置サレ度シ

四、礼 拜

1) 京城收容所基督新礼拜ハ毎日曜ニ行ハル 加持力教徒ハ英語ヲ話シ得ル日本人神父

ニヨリ每週彌教ヲ行ハレ度ク希望ス

2) 仁川收容所 英語ヲ話ス日本人牧師ノ毎日曜ニ未所シテ礼拜主宰ヲ希望ス従来牧師
無シニテ礼拜シ居レリ

五、通 信

停房ハ手紙 端書 慰問品 小包ヲ受領スル權利ヲ有スルトコロ未タ更ニ受取り居ラス
通信カ可及的速ニ配布サレンコトヲ切望シ居レリ

六、仁川收容所ニ於ケル將校ノ待遇

將校ハ略ス兵卒ト共通ニ居住シ居ルトコロ部下トノ過度ノ接触ハ紀律ヲ紊スモノト考
ヘラル、ニ付此點何等改善セラレ度シ

昭和十八年三月三日

在敵國居留民肉原事務室

特余全權公使 鈴木 九 萬

俘虜情報局長官殿

善通寺收容所改善方ニ因シ瑞西国公使館ヨリ申出ノ件

在本邦瑞西国公使館ヨリ同館代表者カ二月十四日善通寺俘虜收容所訪問ノ際在所俘虜ヨリ左ノ通改善方陳述アリタルニ付右実現方斡旋アリ度旨申越アリタルニ付此段御通報申進ス

一、手袋ノ支給

手袋ノ支給ヲ受ケタル者アルモ大部分ハ支給ヲ受ケス霜腫ニ悩ミ居ルニ付支給セラレタシ

二、酒 保

酒保ノ設置セラレタルヲ一同喜ヒ居レルカ販売品種及量ノ増加ヲ希望シ例ヘハ「下ラシ」 齒揚子、安全剃刀及、茶等ノ備付ヲ欲セリ

三、豫備下着

洗濯ノ便宜ト予備下着ノ支給ヲ得ハ幸甚ナリ

以 上

俘虜第八三番ノハ

善通寺俘虜收容所及朝鮮俘虜收容所ノ俘虜取扱ニ関スル件

昭和十八年三月十五日

俘虜情報局長官

在敵國居留民肉原事務室

特余全権公使殿

三月三日附居普通第一八九號及同第一九一號ヲ以テ通報ニ係ル首題ノ件善通寺師団及朝鮮
軍宛移帳ニ置キタルニ付可然諒知相成度

存情第ハ三號ノ七

存房ノ取扱ニ関スル件

昭和十八年三月十三日

存房情報局長官

善通寺師団參謀長殿

瑞西国公使館ヨリ外務省ヲ通シ別紙寫ノ通申入アリタルニ付参考ノ爲通報ス

別紙 居普通第一八九号

昭和十八年三月三日

在敵国居留民関係事務室

特余全権公使 鈴 木 九 萬

存房情報局長官殿

善通寺收容所改善方ニ関シ瑞西国公使館ヨリ申出ノ件

在本邦瑞西国公使館ヨリ同館代表者力十二日及十四日善通寺存房收容所訪問ノ際在所存房ニ
リ左ノ通改善方陳述アリタルニ付右実現方針旋アリ度旨申越シタルニ付此段御通報申進ス

一 手袋ノ支給

手袋ノ支給ヲ受ケタル者アルモ大部分ハ支給ヲ受ケス箱腫ニ悩ミ居ルニ付支給セラレタシ

二 酒 保

酒保ノ設置セラレクルヲ一同喜ヒ居レルカ厥後品類及量ノ増加ヲ希望シ例ヘハ「ガ」ラ
シ「曲」場子、安全剃刀及、茶等ノ備付ヲ欲セリ

洗濯ノ便宜上予備下着ノ支給ヲ得ハ幸甚ナリ

以 上

昭普通令第五六八號

昭和十九年七月十一日

外務省在留國民留民關係事務室

鈴 木 公 使

俘虜情報局長官殿

「ビルマ」及泰ノ俘虜待遇ニ関スル件

「ビルマ」國俘虜收容所及泰國俘虜收容所ニ收容セラレ居ル俘虜ノ取扱ニ関シ今般在露府
赤十字國際委員會委員長「マツイス・ヒネーバル」氏ヨリ別紙ノ通り電報シ承リタルニ付右
款文章ニ送付申進ス御査閱相成度

赤十字國際委員會申出ノ重傷病俘虜送還ニ関シテハ之カ實施ニ関シ幾多困難アルヘク差当
リ之カ考慮ハ困難ナリト認メラル、ヲ以テ之ニ對シテハ其ノ旨ヲ回答スルコト、シ又差向
ノ措置タル俘虜ノ移送及藥品等輸送分配ノ問題ニ関シテハ目前下交渉中ナル曰米及日英間救
恤品輸送問題ノ解決ニ依リ之カ實施ト併セテ考慮スルコト可然ト思考セラル、ニ付右般旨
ニテ一応回答シタキ如何分ノ儀御回答相成度

本信送付先 陸軍省、俘虜情報局、海軍省

別紙

一九四四年六月二十三日附外務大臣宛赤十字国際委員会

委員長「マックス・ヒューバー」氏電報（C・九八一号）訳文

（「ロビルマ」及「赤十字」の存続待遇問題）

赤十字国際委員会ハ存続及抑留非戦闘員ノ一層ノ福祉ノ為ニ總テノ交戦国ニ於テ注意ニ提供
スル碑統的奉仕ノ準備ヲナス目的ヲ以テ貴国政府ニ対シ日本ニヨリ「ロビルマ」司收容所及赤
国收容所ニ收容セラレ居ル存続ノ安寧ノ為凡ユル援助ヲ与ヘシコトヲ冀望スル旨通報スル
ノ光榮ヲ有ス

彼等ハ医学或ハ他ノ原因特ニ收容地ノ氣候状態ニ因リ悪化サレタル痲疾ニ苦シメラレ居レ
リ。本件ニ関シ一九二九年ノ存続待遇ニ関スル壽府條約第六十九條及七十二條ニ規定シテ
ル原則ニ照シテ赤十字国際委員会ハ上記訂類ニ属スルモノノ送還ニ関シ交戦国政府向ニ於
テ適當ナル相互條件ニ依ル取極ヲ為サレシコトヲ貴国政府ノ考慮ノ為ニ謹シテ提議致度シ。
斯ル取極カ成立スル迄而シテ最初ノ手段トシテ赤十字国際委員会ハ存続状態ノ改善ヲ一層

保証シ得ル氣候地域ニ上記存続ノ移送ヲ貴国政府カ承諾セラレシコトヲ要請ス。右目的ノ
為赤十字国際委員会ハ若シ貴国政府ヨリ輸送及分配ニ関シ御配慮ヲ得ルニ於テハ必要ナル
医療供給品ヲ蒐集スル用意アリ

就テハ赤十字国際委員会ハ本件ニ関スル貴国政府ノ御意向ヲ承知シ得バ感謝ニ堪エザル次
第ナリ

本頁ハ肉下ニ対シ茲ニ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表ス

存続第三六號

「ロビルマ」ニ於ケル英軍人存続ニ関スル件

昭和十九年七月二十九日

存続情報局長官

外務省在歐居留民肉保事務室
送 木 公 侯 殿

昭和十九年七月二十九日

存給第三五號

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件

存 屠 情 報 局 長 官

外務省在歐居留民肉保事務室

送 木 公 侯 殿

居秘台第五九九号ニ依ル首領ノ件左ノ通回答人

一 「ビルマ」ニアリシ問題ノ俘虜ハ悉又ハ馬未俘虜收容所々屋ノモノニシテ悉 馬未收

容所々屋俘虜ハ既ニ一万余通報済ナリ又同地方ニ於ケル死亡俘虜ノ通知ハ逐次實施中

二 右以外ノ事項ニ関シテハ事實調査ノ上回答ス

蘇方副第ニ補

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜ニ関スル照会ノ件回答

昭和二十年一月三日

蘇第七九〇〇號陳參謀長

俘虜情報局長官殿

俘給第三六号(俘外電第四九号)ニ依ル首級ノ件左記ノ通答ス

左記

各関係方面ヲ調査セル結果本件ハ長時日経過シアル爲當時ノ関係者殆ト歎(病)死又ハ他方面ニ移動シ詳細調査シ得サルニ抗議ノ内容事實無根ニシテ些細ナル事項ヲ誇大ニ宣伝シ未レルモノト判断ス

第一苦情

本件ハ主トシテ南方総軍ニ於テ南方各地ヨリ泰緬鉄道建設ノ爲派遣セラレタル當時ノ俘虜ニシテ泰緬俘虜收容所「モ」メン」外所附録ノモノト思考セラル、モ之等ノ事實ナシ

第二苦情

当時ノ状況ヲ知得シアルモノナク詳細調査シ得ザルモ之等ノ事實無根ナリ

以十

通牒先 東京俘虜收容所長(参考) 信一六〇、泰緬俘虜收容所長)

馬塚三三六号ニ一添

「ビルマ」ニ於ケル英人俘虜ニ關スル調査ノ件報告

昭和十九年十月九日

馬來俘虜收容所長

俘虜情報局長官殿

威参三密第三三六号ニ附スル件別紙ノ如ク報告ス

報告先 威(参考) 四、俘虜局)

別紙

第一ニ因シテハ昭和十七年進駐頭初ノコトニ届シ蘇方面軍ニ付調査シタルモノ記録ナシ
以下、当所第四分所ニ現ニ收容中ノ俘虏ニシテ、時「モールメイン」ヨリ移動シ承リシ本
入、三立ニ渡リタルモノナリ

第一「モールメイン」地区ニ開スルモノ

「モールメイン」及其ノ附近ニハ昭和十七年頃二万名ニ近キ俘虏ノ收容セラレタリ

「モールメイン」及其ノ附近ニ於テ昭和十七年三月ヨリ四月ニ至ル間、英、

俘虏將校以下約百二十名、印度人俘虏約七百名及「ダミー」ニ於テ收容セラレタリ

ニ拘留セラレシ印度人俘虏、十九名收容セラレ居タリ

「モールメイン」ノ俘虏ハ昭和十七年六月「クボイ」ノ俘虏ハ昭和十八年二月天々

南支那戰俘虏收容所ハ昭和十七年三月十九日開設シニ移動セシメマリ

3. 昭和十七年六月以降ニ於テ「モールメイン」及其ノ附近ニ英人俘虏ノ設置セラレ

タルモノナシ

前項收容期間中俘虏ノ死亡者ハ英人五名（内一名ハ戦傷ノ因ニヨル）印度人五名ナ
リ但シ「モールメイン」刑務所ニ收容セラレマリシ俘虏ノ給養ハ相当不良ナリシ如
シ、英印共ニ「ビルマ」人ノ炊事シタルモノヲ少量宛日ニ回給セラレタリト云ヒ、今
日ノ待遇ニ比スレハ一〇〇対一ノ如シト云ヒ居レリ「クボイ」ノ俘虏ノ給養ハ甚
ク良好ナリキト云フ

シ、事實ノ有無調査ノ法「ナヤ」モ其ノ当時「モールメイン」ニ俘虏ノ留置セラレシトハ
信セラレス

第二前線ニ於ケルモノ

方面軍ノ言ニ據レハ斯ル事實ナシ

以テ三密第五七八番

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜ニ關スル件通牒

昭和十九年十月二十三日

南方軍總參謀長

俘虜情報局長官殿

七月二十九日附存給第ニ六号照会ニ係ハル首題ノ件別紙ノ通報告アリタルニ付通牒ス

南野隊第五班

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜ニ關スル件報告(通牒)

昭和十九年十月六日

南方軍野戰鉄道司令官

南方軍總參謀長殿

取参三密第ニ三六号ニ依ル「ビルマ」(緬甸連合鉄道建設地区)ニ於ケル英國人俘虜ニ關スル件左記ノ通報告(通牒)ス

左記

一 緬甸連合鉄道建設作業ニ從事セル俘虜ノ患者及兵ノ死七者救附表第一第二ノ如ク之等ハ英人捕人俘虜アリテ英人俘虜ノミヲ抽出調査シ得ナルモ亦作業ハ作戦上ノ最モ急ヲ要シ而モ鐵道建設予定線ニ沿フ地域ハ人跡ナキ密林地帯ニシテ宿營給養及衛生施設件爲ノ平常状態ト昔シク異ナリ且昭和十八年雨季頃ニハ甚マ交通絶スル等ノコトアリテ日本軍モ共ニ苦シムノ已ムヲ得サルモノアリ時ニマラリヤレノ極度、消化器疾患ノ多発ハ日本衛生機關ノ主力ヲ集中セルモ之ヲ防止スルヲ得サルノ状態ヲ呈セリ然レ共昭和十八年十月該鐵道開通スルニ及ビ諸施設完備シ患者死七者トモニ著シク減少スルニ至レリ

二 「モールメイ」ニ於テ英國人俘虜ヲ侮辱セル件ハ作業地外ニシテ尙知セサル所ナリ

附表第一

自昭和十八年一月
至昭和十九年七月
停房患者調査表（停房收容所調査）

月	日	停房患者数	系列患者		編制患者		計
			人	員	人	員	
一月	一	三、〇八六	一八、〇五二	四八、六	一一、四九六	三一、〇	二九、五四八
二月	二	四、三三七	二〇、六三四	四八、七	一二、〇七四	二八、五	三二、七一〇
三月	三	四、〇〇九	二一、五一六	四五、八	一四、九八七	三一、九	三六、四九八
四月	四	四、九七六	一九、八九二	四〇、〇	一一、九八二	二五、五	三一、六二三
五月	五	四、九四八	一八、〇一二	三六、四	一三、二八八	二六、八	三一、三〇〇
六月	六	四、八三二	二四、三五一	五〇、〇	一二、九三三	二六、五	三七、二八〇
七月	七	四、八一六	二五、四〇七	四八、六	一二、一九二	二五、三	三五、五九几
				四八、六			三五、五九几
				四八、六			七三、九

月	日	停房患者数	系列患者	編制患者	計		
八月	八	四七、一六二	二三、二六九	四九、三	一一、五三八	二六、六	三五、八〇七
九月	九	四六、一〇三	二一、二二五	四六、〇	一三、四九六	二九、三	三四、七一一
十月	十	四五、二七七	二三、八〇一	五二、六	一二、一四一	二六、八	三五、九四二
十一月	十一	四四、六六九	一九、九七四	四四、七	九、六一九	二一、五	二九、五九三
十二月	十二	四四、三三二	一九、四九七	四三、九	一二、三八〇	二七、九	三一、八七七
一月	一	四三、六九五	二三、二八九	五三、三	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九
二月	二	四三、三一六	二二、九七七	五三、〇	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九
三月	三	四三、一七三	二〇、九二七	四七、三	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九
四月	四	四三、一一六	二〇、三二四	四七、一	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九
五月	五	四三、〇八三	二〇、〇八〇	四六、六	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九
六月	六	四〇、〇二八	一七、四一八	四〇、五	一一、三九〇	二七、九	三三、二八九

計	七月
	四〇、九六〇
三八三、六一三	五四六八
	一三四
一四八、八七二	
五三二、四八五	五四六八

附表第二

自昭和十七年八月
至昭和十九年八月
(森俘虜收容所調査)

月 別 分	使用俘虜 總數	森俘虜死亡者		緬甸死亡者		合計
		人員	總員對スル比	人員	總員對スル比	
一〇	八、一、一	一〇	〇・一	一	〇・一	二〇
九	四、三、四	二	〇・〇五	二	〇・〇五	四
七八	四、三、五	二	〇・〇五	二	〇・〇五	四

月 別 分	使用俘虜 總數	人員	總員對スル比	人員	總員對スル比
一	二、六、二、八、四	五	〇・二	一	〇・四
二	二、九、五、三、六	六	〇・二	一	〇・四
三	四、七、〇、〇、九	五	〇・一	三	〇・九
四	四、九、七、六、六	一	〇・三	二	〇・四
五	四、九、四、八、九	二	〇・五	五	〇・一
六	四、八、八、三、二	五	〇・一	八	〇・一六
七	四、八、一、一、六	五	〇・二	三	〇・二八
八	四、七、一、六、二	八	〇・一六	五	〇・三三
九	四、六、一、〇、三	八	〇・一六	一	〇・三

計

尚以下ハ当所ニ関係ナキニ付申添フ

左記

「ビルマ」ニハ昭和十七年九月「ジャバ」ヨリ俘虏九五五名ノ移管ヲ受ケ第三分所ヲ開
 設シ次イデ昭和十八年一月俘虏二九四名ノ移管ヲ受ケ第五分所ヲ開設シ鉄道第五聯隊ノ
 指揮下ニ在リテ泰緬連接鉄道ニ従事セシメタリ
 当時給養不良 宿営施設不備 衛生施設不完全ナリシ上ニ作戦上ノ要求ニ基キ昭和十八年
 八月南進ヲ目途ニ所謂突撃作業ヲ執行セル爲附帯ノ如キ多数ノ患者死亡者ヲ生ズルニ至レ
 リ

昭和十八年十月鉄道南進スルニ及ビ在「ビルマ」俘虏ハ一部ノ鉄道部隊改力者ヲ除キ逐次
 「カンチヤナナリ」ノンプラドック「ターマカム」ニ集結ヲ完了シ現在ハ宿営給養共
 ニ著シク改善セラレ患者死亡者トモ激減スルニ至レリ

別紙 第一

自昭和十八年一月 至昭和十九年七月 俘虏患者調査表

左記

月別	收容總数		泰甸患者		緬甸患者		計	
	人	員	收容總数ニ 対スル比率	人	員	收容總数ニ 対スル比率	人	員
一月	三七〇	八六	一八〇	五二	一一四	九六	一九	五四八
二月	四二	三三七	二〇	六三四	一一	〇七六	三	二七一〇
三月	四七	〇〇九	二一	五一一	一四	九八二	三	六四九八
四月	四九	七六六	一九	八九二	一一	七三一	三	一六二三
五月	四九	四八九	一八	〇一一	一三	二八八	三	一三〇〇
六月	四八	八三三	二四	三五二	一一	九三三	三	七二八四
七月	四八	一一六	二	三四〇	一	二一九二	三	五五九九
計	三七〇	八六	一八〇	五二	一一四	九六	一九	五四八

八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和十九年一月	二月	三月	四月	五月	六月
四、一、六二	四、六、一〇三	四、五、二七七	四、四、六六九	四、四、三七一	四、三、六九五	四、三、三一六	四、三、一七三	四、三、一一六	四、三、〇八三	四、三、〇二八
二、三、二六九	二、一、二二五	二、三、八〇一	一、九、九七四	一、九、四九七	二、三、二八九	二、二、九七七	二、一〇、四二七	二、〇、二二四	二、〇、〇八〇	一、七、四一八
四、九、三	四、六、〇	五、一、六	四、四、七	四、三、九	五、三、三	五、三、〇	四、六、三	四、七、一	四、六、六	四、〇、五
一、二、五三八	一、三、四九八	一、二、一四一	九、六一九	一、二、三八〇						
二、六、六	二、九、三	二、六、八	二、一、五	二、七、九						
三、五、八〇七	三、四、七二一	三、五、九四二	二、九、五九二	三、一、八七七	二、三、二八九	二、二、九七七	二、〇、四二七	二、〇、三二四	二、〇、〇八〇	一、七、四一八
七、五、九	七、五、三	七、九、四	六、六、二	七、一、八	五、三、三	五、三、〇	四、七、三	四、七、一	四、六、六	四、〇、五

五二

合計	七月
	四〇、九六〇
	五、四六八
	一、三、四
	五、四六八
	一、三、四

附表第二

編成以來月別死亡表

至昭和十八年八月
自昭和十七年八月

月別	昭和十七年八月	九月	十月	合計
收容総数	四、二、三五	四、二、三四	四、一、七一	五、四六八
人	二	二	一〇	一三
収容総員ニ対スル比率%	〇、〇、五	〇、〇、五	〇、一、二	〇、一、三
緬甸側死亡者				
人				
収容総員ニ対スル比率%				
合計				
人				
収容総員ニ対スル比率%				

五三

八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月
四〇、三一三	四〇、九六〇	四三、〇二八	四三、〇八三	四三、一一六	四三、一七三	四三、三一六	四三、六九五	四四、三七二	四四、六九九	四五、二七七

〇、〇九	〇、〇九	〇、一四	〇、一五	〇、一三	〇、三四	〇、五六	〇、八七	〇、七七	一、〇六	一、四五
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

							二、八九		一、〇一	一、七一
--	--	--	--	--	--	--	------	--	------	------

三七	四〇	六〇	六四	五七	一四五	四一六	六七九	三四四	五七八	八二七
〇、〇九	〇、〇九	〇、一四	〇、一五	〇、一三	〇、三四	〇、九六	一、五三	〇、七八	一、二九	一、八三

五五

九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月
四六、一〇三	四七、一六二	四八、一一八	四八、八三二	四九、四八九	四九、七五六	四七、〇〇九	四二、三三七	二七、〇八六	二九、五三四	二六、四八四

八九五	八〇〇	五八五	五七八	二七一	一八六	二五五	五〇	六二	六八	五四
一、九四	一、六九	一、二〇	一、一八	〇、五五	〇、三七	〇、五四	〇、一二	〇、一七	〇、二三	〇、〇二

一六四	一五四	一三三	八〇	五	二〇	七	三七	五八	一三	一〇
〇、三六	〇、三三	〇、三八	〇、一六	〇、〇一	〇、〇四	〇、〇二	〇、〇九	〇、一五	〇、〇四	〇、〇四

一、〇五九	九五四	七一八	六五八	二七六	二〇六	二六二	八七	一二〇	八一	六四
二、〇四	二、〇二	一、四八	一、三四	〇、五六	〇、四一	〇、五六	〇、二+	〇、三二	〇、二七	〇、二四

五五

一九四四年七月四日附在京瑞西国公使館口上書反訳文

一九四二年九月十五日附當時ノ外務大臣陸軍大将東條英機閣下宛書翰並ニ一九四二年十二月九日附公正之閣下宛書翰ヲ以テ瑞西国公使ハ英國政府カ「ラングーン」監獄ニ於ケル俘虜ニ對スル惡遇ニ付懐キクル憂慮ノ念ヲ通達セル光榮ヲ有セリ。

倫敦政府ハ同時ニ右取扱ニ関スル數多ノ事例ヲ通達セリ

一九四三年二月九日附居普通第三三三書翰ヲ以テ外務大臣閣下ハ瑞西国公使ニ對シト記書翰中ニ掲ケラレタル事實ハ存在セサル旨回答アリタリ瑞西国公使ハ同書翰ノ内容ヲ英國政府ヘ転達ノ爲本国政府ヘ報告セリ

瑞西国公使館ハ外務大臣ニ對シ英國政府ハ新通譯文ニ於テ帝國政府ニ對シ「ビルマ」ニ於ケル俘虜取扱ニ関シ左記通達方要請越セル旨通知スルノ光榮ヲ有ス

一、第一ノ苦情ハ「モールメイン」地区ニ関スルモノニシテ三項ヨリ成ル

A. 通知

日本官憲カ印刷セル端書ニ依レハ約二万ノ英國及英属國俘虜カ「モールメイン」又ハ其ノ附近ニ收容セラレ居レリ

俘虜ノ同收容所ヘノ移動ハ管ヲ通知セラレサリキ。又現在同收容所及其ノ他ノ「ビルマ」收容所ニ在ル多數ノ俘虜ノ捕獲モ通知セラレサルモノノ如シ尚又同地ニテ死セセルモノト認メラル、多數ノ死セニ付テモ亦何等通知セラレサリキ

B. 状態

「モールメイン」收容所ニ收容中ノ俘虜ノ状態ハ英國政府ニ於テハ泰國ニ於ケルヨリ之更ニ不良ナルカ又ハ少クトモ同様ニ不良ナルモノト認メラレ居レリ。(一九四三年七月五日附重光英閣下宛瑞西国公使書翰参照)

一九四二年十月及十一月「モールメイン」ノミニ於ケル俘虜ハ毎日約十名ノ割合ニ

テ死セリト云ハレ。死セノ主ナル原因ハ赤痢ナリ。モトルノインレ又ハ其ノ附近ニ於テ日本官憲ニ依リ管轄セラル、他ノ收容所ニ於テハ「ピルマ」鉄道ニ就働セル俘虜ノ間ニ更ニ一層喫撃スヘキ死亡率現レタリ。之等ノ死亡ハ收容所ノ状態殊ニ日本官憲ニ依ル全然不適當ナル配給、病院ニ医薬又ハ衣備ヲ怠リタルコト、適當ナル衣服又ハ食物ヲヘモ病ニト完全ニ欠乏セルコト及俘虜ニ強制セラレタル労働ノ苛酷性等ニヨル直接且間接クヘカラサレ結果ナリ。

俘虜ノ展示

一九四四年二月俘虜ニ五名ハ「モトルメイ」ノ市内ヲ行進セシメラレタリ、彼等ハ憔悴セル状態ニテ且彼等ハ最近「アラカン」野線ニ於テ捕獲セラレタル（事實ハ然ラス）旨「ピルマ」語ニテ書キタル広告ヲ携行セシメラレタリ。彼等ハ尚其ノ行進ニ同行セル日本人將校ニ依リ勸笑侮辱セラレタリ。

カ、ル措置ハ俘虜條約並ニ條ノ違反ナルニ加ヘ明カニ榮譽アル戦争ノ本側ニ反シ且

文明ト自称スル國民ニアルマシキ振舞ナリ

第一、苦痛ハ「ピルマ」前戦地帯ニ於ケル日本軍ノ行動ニ因スルモノナリ。最初ハ二回ノ「ピルマ」作戦ニ於テ同軍隊ハ俘虜ニ対シ幾多ノ惨虐ヲナシタリ（若シ要ホアラハ例示スヘシ）。現「ピルマ」作戦ハ一九四四年二月七日「ニヤクドック」附近ニ於テ捕獲セラレタル員傷兵及医務員ヲ含ム英國人及印度人俘虜ノ虐殺及虐害ニ依リ特徴付ケラレ居レリ。医務員ハ長時間手ヲ硬ク縛サレ二日間食糧及水ヲ与ヘズシテ苦メラレタリ。

受傷セル俘虜ニ対シテハ如何ナル医療手当モ講ゼラレズ。又苦痛ノ爲呻吟セル患者ハ射殺又ハ銃剣ニテ殺サレタリ。其ノ他ノ患者ハ故意ニ火線ニ置カレ爲ニ少クトモ死者一名及負傷者多数ヲ出セリ。俘虜ヲ撤退セシムル試ミナカリキ。

二月十四日、日本軍ハ右地区ヲ撤退セリ。之ニ先キ彼等ハ故意ニ残余ノ俘虜（少クモ英國人及印度人二十名アリ、其ノ中多数ハ赤十字ノ腕章ヲ附ケ居タリ）ヲ射撃ニ依リ

虚報セリ 之等ノ事實ハ目撃者ノ教言ニ依リ知ラレタリ 更ニ現在ノ收録ニ於ケル三
本軍前線ノナセル其ノ他ノ旅行ノ例証左ノ如シ

A. 一九四四年一月末「ボーンギーキョー」ニ於テ負傷セル西河節利加人兵長ヲ死
刑又ハ斬首

B. 一九四四年一月「カラワイン」東方約五哩ニ在ル女寮所ヨリ逃去エムトシタル印
度兵四名ヲ斃刑ニテ突殺セルコト

C. 一九四四年三月「マニアル」ニ於テ負傷セル約五十名ノ英國人又ハ印度人俘虜ヲ
刀剣ニテ虚殺

D. 一九四四年三月二十六日「カンドック」ニ於テ行ハレタル暴行ニシテ西河節利加
人俘虜カ本ニ縛カレタ上日本兵軍医將校ニ依リ指ノ爪ヲ切取ラレ心臓ヲ剥取マラレ
タリ

英國政府ハ上記事實ニ對シ守軍官憲ニ於テ完全ナル調査ヲ爲スト共ニ再發防止ノ爲凡エル

有効ナル措置ヲ講セラル、概要請ス

公使館ハ帝國外務省ノ御回示ニ對シ 豫メ表謝旁々重ネテ敬意ヲ表ス

19. 7. 22 居秘合第五九九號

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ關スル件ノ回答兼骨子

(説明)

右ハ一九四四年七月四日附瑞西国公使口上書抗議ヲ内容トスルモノニシテ本件ニ關シテ
ハ傳給第三五号ヲ以テ一七・二九日A. 通知事項ノミ回答シ其ノ他ノ事項ニ關シテ
ハ事實調査ノ上回答ノコトヲ通知セリ

然ルルコト同年十一月十八日再ビ右回答ヲ催促シ承ルト共ニ英軍人六名ノ処刑ニ付抗議
シ添レリ

前後ノカ、ル行爲判然セサルモノアルモ其ノ慘虐性百ヲ覆ハシムルモノアリ。日本軍人
 トシテ在抗力ニ存膏ニ対シテ爲セル行爲トハドウシテモ考へ得サルモノアリ
 森田隊隊長モ抗議ノ事實ヲ否定シアリ。之方莫美タルモノト思考スルモノナリ。今前
 抗議ニ付反駁資料整理スルコト次ノ如シ

(反駁資料)

一、第一ノ苦情ハ「モールメン」地区ニ開スルモノノニ対スルモツ

A. 通知

「日本官憲」ガ印刷セル蒙書ニ依レバトアルモ日本軍ノ或ルモノガ端書等ニ單ノ機
 密事項ヲ印刷スルナドハ到底想像シ得サルモノナリ
 ガ、ルモノガアリトスレハ偽造ノモノトシカ思ハレズ
 敢テ之ノ証據ヲ見センコトヲ期待スルモノナリ

日 状 態

森田三分所ハ十七年八月最初「タンビザヤ」ニ開設セルモ工争ク進捗其ノ他ノ事情
 設備等ニ依リ「モールメン」ニ移リシコトモアリタリ
 森田三分所ノ收容員數ハ次ノ通ニシテ抗議ニ見ルニ万名ノ停務ヲ收容セルコトナシ
 当月別患者數並ニ死セ者等次表ノ通

一九四二年八月	一、二四六
九月	一、二四七
十月	四、六三四
十一月	五、四四三
十二月	八、五一九
一九四三年一月	一〇、四一九
二月	九、四三七
三月	九、四二一
四月	九、三九三

一九四三年五月	九、三六八
六月	
七月	
八月	
九月	
十月	
十一月	
十二月	
一九四四年一月	

昭和十九年十一月一日

外務省在敵国居留民間係事務室

鈴 水 公 候

俘虜情報局長官殿

「ビルマ」ニ於ケル印度人俘虜取扱ニ関スル件

本件ニ関シ今般在京瑞西国公使ヨリ別紙訳文ノ通英因政府抗議ヲ提出越セルニ付委細右ニテ御了悉御調査ノ上本件回答振ニ関シ何分ノ儀至急御回示相成度

尚本件ニ関シテハ英國政府ヨリ瑞西公使ニ対シ特ニ外務大臣特ニ直接提出スヘキ旨ノ訓示アリシ趣ヲ以テ十月二十八日同公使外務大臣ニ会见ノ際之ヲ提出セルモノナリ

本信送付先 陸軍次官、俘虜情報局長官

別紙

一九四四年十月三十一日附在京瑞西国公使来翰訳文

以書翰送致候際首本使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ英國政府ハ左記ノ事実ヲ目撃者ヨリ報告ヲ受ケ居ル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

第一ノ一六「パンギヤビ」聯隊ノ下士官及兵約十九名ハ客年「ビルマ」ニ於テ日本軍ニ依リ捕獲セラレ十一月二十日「モライク」收容所ニ運行セラレタリ之等ノ中「ナイク」ハカ

「ミン」*(Naik Bhagaban Singh)* 「ラメンスナイク」*(Naik Miel Singh)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)*

見セラレタリ「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)* 「ナイク」*(Naik Ram Lal)*

「ハンジヤブ」*(Naik Hanjiya)* 「ハンジヤブ」*(Naik Hanjiya)* 「ハンジヤブ」*(Naik Hanjiya)* 「ハンジヤブ」*(Naik Hanjiya)* 「ハンジヤブ」*(Naik Hanjiya)*

ヘラレス、在ニ纏リ村ケラレ居タリ其ノ後彼ハ停身ノ住舎ヨリ見エル百水先ノ跡ニ至リ足造縛
ラレタナリ順次ニ同一ノ銃ニテ彼ヲ突キタリ最初ノ者違ハ手及眼等ノ急所外ノ部分ヲ無効
ニ突キタル後他ノ者違ハ腹脚ヲ突キタリ 彼ハ九人目ノ者カ心臓ヲ貫通セル際死セタリ
他ノ三人ノ逃走者モ亦後捕獲セラレ「モテイクル」收容所ニ連行ノ上同様ノ方法ニテ十人ノ
口木兵ニ依リ殺サレタリ

英国政府ハ右四人ノ印度人ニ対スル取扱ヲ取争法規及慣行ノ非法ナル違反ナリト思考シキ
ニ対シ最モ嚴重ナル抗議ヲ為スト共ニ之カ調査及責任者ノ適當ナル処罰ヲ要求セリ
本件調査ノ結果ヲ出来得ル限り速ニ通報方依頼傍茲ニ重ネテ貴大臣ニ向テ教意ヲ表シ候

敬 具

居秘合第九七一號

昭和十九年十二月二十七日

外務省在歐國居留民関係事務室

公 使

片房情報局長官殿

「ビルマ」ニ於ケル停身事件ニ関スル件

本件ニ関シ令般在米瑞西國公使館ヨリ別添仮訳文甲号ノ通中越アリケルニ付悉細右ニテ御
下知ノ上回答報ニ関シ何分ノ儀御示相取度

当別紙口上書中ニ引用セラレタル瑞西國公使宛外務大臣普翰居普通第一八五号ハ別紙乙

号英國政府抗議ニ対スル回答別紙丙号ヲ指スモノニシテ右回答發送ニ付テハ予ハ其存トモ

其後シタル次第ナリ

ニ念申添フ

本信送付先 陸軍省軍務局長 片房情報局長官

一九四四年十二月五日附在廣瑞西國公使館の上書板紙

前在在公使館へ廣瑞西國公使館へ對し英國政府通牒ニ依リバ同政府へ「ビルマ」於テ、停屠派
 前在在公使館へ對シ「總和」印「ル漢本」小冊子ヲ見出しケル旨通牒スルノ光榮ヲ存ス
 五月二日昭和十八年八月六日「林師田英」ヨリ發行セラレ被原ノ發刊アリ 英、米、露
 人在在ニ對シテ「手引」ニテ被用ヒラル、モ、ニシテ左ノ一節アリ
 二 虐害ヲ立又ハ海軍行爲ニ對スル結果トシテ總責、斬罵スハ拷問ヲ行フ爲メハ注意ヲ要ス
 三 運送適用スヘキ方法左ノ通

己 拷問（足蹴、打擲及其他ノ肉体的苦痛ニ因連スル手段ヲ含ム）此ノ方法ハ最モ拙劣
 ナルヲ以テ他ニ手段ナキ場合ニ用フヘシ（註：本文ニハ此ノ一節ニ特ニ印付ケラレ
 アリ）烈シキ拷問ヲ行フ場合ハ取向スル將校ヲ責フヘシ 而シテ新シキ手段ノ取向
 カ同情的ナルトキハ好結果ヲ得ヘシ

骨 迫

一 將來ノ肉体的苦痛ニ對スル暗示 例へハ拷問、殺害、飢餓、独居監禁、睡眠禁止
 等

二 將來ノ精神的苦痛ニ對スル暗示 例へハ手紙發送又ハ停屠タルコトヲ家庭へ通知
 スルコトヲ許サレザルコト、他ノ停屠ト同一ノ待遇ヲ与ヘラレザルコト、停
 屠ノ交換アル場合最後ニ殺サルヘキコト

英國政府ハ右ニ開スル日本政府ノ注意喚起方要請セリ 同政府ハ最近帝國官憲カ拷問ヲ用
 ヒタルコトヲ強ク否定セルコトヲ指摘セリ（重光外務大臣發瑞西國公使宛居普通第一八五
 号書翰参照）

倫敦政府ハ前記訓令カ帝國政府ノ知ル所ナク發セラレタルモノト思考シ同政府カ右訓令ノ
 取消ヲ爲スノミナラス其發行者ヲ処罰セラレムコトヲ期待ス

公使館ハ外務省ニ對シ至急本信ニ對スル帝國政府ノ回答通知方要請旁茲ニ重ネテ敬意ヲ表

レタルニ対シ、之ヲ通報ナシト抗議シ居ル如之等俘虜ニシテ、ビルマレ方面ニ一所在
リタルモノ、大多数ハ泰及馬、未俘虜收容所々屋ノモノニシテ、ビルマレニ臨時移動セ
シメラレ居リタルモノナリ。

帝國政府ハ俘虜ノ氏名ノ通報ニハ特ニ努力ヲ払ヒ来レリ今後モ一層努力スヘキヲ泰及
馬未收容所々屋ノ俘虜ニシテ既ニ其ノ氏名ヲ右壽府赤十字國際委員會ニ通報セラレタ
ルモノハ一万余名ニ達シ居リ又同地方ニ於ケル死亡俘虜ノ名表ノ通知ハ逐次実施中ナ
リ
二、右以外新ニ申請ナレタル事項ニ関シテハ事實調査ノ上通報スヘシ

乙 第

一九〇四年十一月十八日外務省宛瑞西公使館口上書返叙

瑞西国公使館ハ七月四日附口上書ヲ以テ帝国外務省ニ対シ緬甸ニ於テ俘虜ニ与ヘラレタル

趣ノ愚慮ニ関スル英國政府ノ通牒ヲ送達スルノ光榮ヲ有セリ

倫敦政府ハ右俘虜カ受ケタリト云フ苛酷ノ取扱数件ヲ列記セリ

尚同政府ハ在緬甸俘虜ノ氏名ノ通報無キヲ訴ヘタリ

外務省ハ八月二十六日附ヲ以テ本公使館ニ対シ在緬甸俘虜ノ大部分ハ臨時同地ニ移動サレ
タルモノニシテ、彼等ハ泰國及マライレ收容所ニ屈スルモノナル旨通報セリ、帝國政府
ハ其ノ権下ノ俘虜ノ氏名通知促進方ニ努力ヲ為シ居リ、既ニ上記收容所ノ俘虜一万余名以上
ノ氏名ヲ赤十字國際委員會ニ通告セリ、外務省ハ英國側通牒ニ列記ノ他ノ諸点ニ対シテハ
申立事項ノ取調ノ後回答ヲ為スヘシト附言セリ

本公使館ハ上記ノ次第ヲ本國政府ニ通報シ英國政府ニ辱違方依頼セリ

今般倫敦ヨリ得タル通報ニ依レハ、英國政府ハ在緬甸俘虜ノ待遇及彼等カ受ケタリト云フ

苛酷ノ取扱数件ニ関シ帝國內閣官憲ニ於テ為サレタル調査ノ結果ヲ出承得ル限リ速ニ承知

方切望スト同政府ハ七月四日附本公使館ノ口上書送付後閣内官憲カ本件ニ付必要ナル調査ヲ

ク豫以回答ニ対シ感謝シ致ニ重ネテ同省ニ白ツテ敬意ヲ表ス

居留適合第ハ四番

昭和二十年二月二十日

外務省在該国居留民保護事務局

俊 木 公 辰

居留情報局長官殿

「ビルマ」ニ於ケル英国人居留取扱ニ関スル件

本件ニ関シ在京瑞西公使館ヨリ一月二十三日附口上書ヲ以テ別添假訳文ノ通り申越シノ次第有之タル如右ハ英内閣政府ヨリ新ニ抗議ヲ督促シ越シタルモノニハアラサルモ我カ方カ瑞西公使館ニ対シ去年八月二十六日附口上書ヲ以テ爭突調査ノ上追報スヘシト回答セシ

四 二十

当時日経通シ居リ又去年十二月五日附在京瑞西公使館口上書

十二月二十七日附

居秘第九七一号参照トノ兼合モアリ今回申越セル「ラング」ニ中央刑務所ニテル居留ノ衛生状態ニ関シテハ此ノ際一応ノ回答ヲ致度ト思考シ居ルニ付何分ノ嚴重急御回答相成度此段依頼申進ス

本信送付先 陸軍省、居留情報局

別紙

一月二十三日附外務省宛瑞西公使館口上書仮訳

瑞西公使館ハ去年七月四日附及十一月八日附口上書ヲ以テ帝国外務省ニ対シ英国政府ハ「

ビルマ」ニ於ケル居留ノ悪遇ニ関シ抗議越シタルコトヲ通告スルノ光榮ヲ有セリ

同政府ハ此等居留ノ受ケタリトナス傾向数件ヲ列举セリ又同政府ハ約七百名ノ居留ノ「

ラング」ニ中央刑務所ノ條件ハ甚ダ不良ニシテ前記七百名ニ対シ至急医療措置ノ講セシル、要アルベキコトヲ指摘セリ

外務省ハ客年八月二十六日附ヲ以テ前記八月四日附口ニ書ニコソテ通報セラレタル英吉利
ノ通告中ニ提起セラレ居ル諸点ニ對シ調査ノ上回答スヘキ旨特ニ瑞西公使館ニ通報セラレ
タルコトヲ記憶セラル、ナラン

今日ニ至ル迄回答ナキヲ以テ公使館ハ本件ニ関シ帝國外務省ノ懇切ナル注意ヲ喚起セラシト
受テ英國政府ハ前記口上書ニ後叙ノニ提起セラレタル事實ニ関シ帝國政府ニ於テ着手セラ
レタル調査ノ結果ヲ出承得ル限リ速クニ承知致度ト願ル希望シ居ルト認メラル公使館ハ外
務省カ公使館ヲシテ出承得ル限リ速クニ倫敦政府ニ通報セシメ得ル様要請シ茲ニ重ネテ敬
意ヲ表ス

存外第一二號

「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件

昭和二十年二月二十三日

俘虜情報局長官

外務省在歐居留民關係事務室

鈴木公使殿

昭和十九年十二月四日附居普通第九一〇号ニ依ル旨願ノ件左ノ通回答ス

- 一 昭和十九年七月二十九日附存給第五五号ノニテ回答セル現地ノ状況ヲ調査セル結果
「ビルマ」ニ於ケル俘虜ノ一部ニ於テ衛生状況必スシモ良好ト謂ヒ難キモノナキニア
ラサリシモ之ハ俘虜ノミナラス現地ニ於ケル帝國軍隊モ共ニ困難ナル状態ニ在リシニ
起因スルモノニシテ現在ニ於テハ既ニ改善セラレアリ
- 二 英國人俘虜ニ對スル侮辱虐待等ニ関シテハ現在迄ノ報告ニ依レハ斯カル事實ヲ認メザ
ルモ將來共俘虜ノ取扱ヲ公正ナラシムル如ク指導シアリ

昭和二十年六月二十二日

外務省在敵国居留民肉保事務室

鈴木 公 辰

俘虜情報局長官殿

在「ピルマ」英國人俘虜ニ対スル取扱ニ関シ英國政府
申出傳達ノ件

本件ニ関シ今般瑞西国公使館ヨリ三月十九日附口上書ヲ以テ別紙仮訳字ノ通申越シタルニ
付テハ委細方ニテ御承知相成度

別紙

一九四五年三月十九日附外務省宛在京瑞西国公使館口

四二一

上書 CC-1-381 FGC CC-1-757 CC-1-760 仮訳

舊年七月四日附十一月十八日附及一月二十三日附口上書ニヨリ瑞西国公使館ハ帝國外務
省ニ対シ英國政府ハ「ピルマ」ニ於ケル俘虜カ目的トナリ居ル悪待遇ニ関シ抗議セルコト
ヲ通報セルノ光榮ヲ有セリ

帝國政府ハ拷問力之等俘虜ニ対シ与ヘラレタリト認メラル、數件ヲ指摘セリ 尙帝國政府
ハ俘虜七百名ノ扣留ハレ居ル「ラングー」ニ中央刑務所ニ於ケル諸條件極メテ劣悪ナルコ
ト及医療ノ速カニ与ヘラルベキ必要アルコトヲ指摘セリ

外務省ハ客年八月二十六日附ヲ以テ特ニ公使館ニ対シ帝國政府ハ七月四日前記口上書ニヨ
リテ傳達セラレタル英國側通告中ニ指摘セラレ居ル諸点ニ対シ向題トナレル事實ヲ調査セ
ル後之ニ回答スヘキ旨ヲ特ニ通報セルコトヲ想起セラレヘシ

本日ニ至ル迄回答ナキニヨリ公使館ハ本件ニ関スル帝國外務省ノ懸念ナル注意ヲ喚起セン
ト欲ス英國政府ハ帝國政府ガ提起セル事實ニ関シ帝國政府ニヨリテ行ハレタル調査ノ結果

ヲ承知シ度キコトヲ願フ希望ス

公使館、外務省ニ対シ同公使館ヲ英國政府ニ報告スルハ屏ル地位ニ置カレンコトヲ希望ス
ル共ニコノ機会ニ於テ茲ニ重クニ注意ヲ表ス

存案第四〇番

存案第四〇番ニ關スル英國政府申入ノ件因茲

昭和二十年七月二十日

存案第四〇番 局長 官

外務省在敵国居留民関係事務室

鈴木 公 侯 殿

昭和二十年六月二十二日附送秘第ニ九五号ヲ以テ該会アリタル英國人俘虜ノ取扱ニ關シ左

ノ通回答ス

左 記

- 一、持向ノ実施ニ關シテハ当局ニ於テ調査セルモ如斯事實ナク亦報告ヲ受領シタル事實ナシ
- 二、コラングインレ刑務所ニ於ケル俘虜ノ給与ハ不良ナラス 戦場ニ於ケル衛生ノ常態ニシテ皇軍ニ於テモ同様ノ現象アリ当局ニ於テモ極力之ヲ治療ニ關シテハ努力シアリ

居普通合第ハハ八番

昭和十九年十一月二十四日

外務省在敵国居留民関係事務室

俘虜情報局長官殿

在 西貢米人俘虜ノ取扱ニ関スル件

本件ニ関シ在東瑞西国公使館ヨリ別添英文ノ通申越シタルニ付、悉細ハ右ニテ御了承ノ上、手
情取調ノ結果御取調相成度此段取扱ス

別紙

一九四四年十一月十四日附外務省宛瑞西国公使館口上書取扱

瑞西国公使館ハ帝国外務省ニ対シ米国政府ヨリ左記通牒ノ日本政府宛傳達方依頼越シタル
旨通報スレノ光榮ヲ有ス

米国政府ノ得タル信息スヘキ情報ニ依レハ西貢ニ於ケル傷病俘虜ハ病院ノ管理ノ爲設置セ

四二〇七

二一七

ラレタル軍人ニ依リ取扱ニシテ無責任ナル取扱ヲ受ケ且同病院ニハ之等俘虜ニ対シ適當ナ
ル看護ヲ為スニ必要ナル医療品及藥品ノ備付ナシ

斯ク、如キ陸軍病院ノ管理振ハ其ノ拘留中ノ米国人ニ対シ保護ト入道的取扱ヲ當時ナスハ

シト、日本内務省当局ノ宣言並ニ日本国が署名自タル拘留中ナルカ或ハ戦地軍隊ニ於ケル傷者

及病者ノ状態改善ニ関スル條約第一條即チ俘虜兵卒及其ノ他軍隊ニ公的ニ従属セル者ニ

シテ傷者及病者ハ凡ニル場合ニ於テ尊重ナル保護ヲ受クヘキコトヲ規定セル同條ニ直接連

反シ居リ彼等ハ其ノ拘留交戦国ニ依リ国籍ノ如何ヲ問ハス人道的取扱ヲ受ケ且看護セラル

ヘキモノナリ

本國政府ハ本件ニ付日本政府ニ於テモ至急調査ヲ行ヒ直ニ上記状態ノ改善方措置ヲ講セ

ラル、最要求ス

瑞西国公使館ハ外務省ニ対シ本通牒ニ対スル日本政府ノ回答通知方ヲ依頼シ茲ニ重ネテ同
省ニ向ツテ敬意ヲ表ス

在阿貢米人傷病俘虜ノ取扱ニ関スル件

昭和二十年二月九日

俘虜情報局長官

外務省在敵国居留民間救済務室

後 木 公 使 殿

昭和十九年十一月二十四日附居普通合第ハハ八号ニ依ル未照首題ノ件左記ノ通回答ス

左 記

一、西貢俘虜病室又ハ同地陸軍病院ニ於ケル傷病俘虜ニ対スル取扱ハ最モ公正ナル人道的
 取扱ニシテ聊モ戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月
 二十七日ノジュネーブ條約第一條ニ悖ルモノナシ

二、同病室又ハ病院ニ於ケル俘虜軍医並ニ患者ハ日本軍ノ人情味アル且鄭重ナル取扱ニ対
 シ非常ニ満足且感謝シマリ

三、同地俘虜病室ハ入隊ヲ要セケル俘虜患者ノ診察ヲ行フヲ目的トスルモノニシテ又ニガ医療
 品並ニ藥品ハ必要ニシテ且充分ナル設備ト補給トカ營マレツ、マリ 殊ニ藥品ハ軍司

令新規定ニ基キ補給ヲ受ケ俘虜軍医ノ要求ヲモ容レ状況ニ応スル補給量ヲ受ケ得ルカ
 如ク取り計ハテレ而モ石基華ハ日軍部隊ト何等相違ナキモノナリ

四、以上ノ外当病室ハ日本軍宿舍ナリシヲ改造セルモノニシテ設備良ク日軍宿舍モ俘虜病
 室ト同一建物内ニマリテ何等施設上差違ナク又其ノ經營ニ因シテハ雜材購入等モ俘虜
 監督將校及俘虜軍医ヲシテ実施セシメ居リ現地ニ於テ獲得可能ノモノハ最大限ノ範圍

ニ於テ期年ヲ實施スル等(目下毎日一人当三四〇。カロリー平均給養シツ、アリ)待遇
 上ニ於テモ出未得ル限リノ自由ヲ与へ明朗ニ療養シ得ルガ如ク管理指導ニアルモノナリ

五、以上ノ事實ハ物心両面ニ好結果ヲ齎ラシ七月前該当初五〇〇名ナリシ患者ヲ気候不順
 八九

ニ不拘數ヲ以テ一八〇名ニ減シタルハ之ヲ証明シテ余リマシムルモノナリ 尚承尾ニ
 参考トシテ俘虜患者並ニ俘虜軍医ノ手記(本手記ハ何等拘束スルコトナク又將承ニ於
 ラ不当ノ圧迫ヲ受クルコトナキ旨声明シテ作製セシメタルモノニシテ内容ハ信スヘキ
 モノナリ)ヲ添付スルモ之亦以上ヲ覆書キスルモノナリ
 大 要之我方ノ俘虏俘虏ノ取扱ハ何等ノ批准ヲ受クヘキモノニアラス本抗議モ米國ノ常套
 的手段タル根據ナキ事項ヲ敢テ抗議センカ爲ノ抗議ニ捏造セルモノト辨セサルヲ得ス
 此ノ際米國政府ノ得タル「信憑スヘキ情報」ナルモノヲ披見セシメラレンコトヲ期待
 スルモノナリ

国籍

英

姓名

マツークラン

階級身分

軍医大尉

西貢俘虏患者療養所

我々ハ一九四四年七月十日ニ西貢ノ新ラシイ患者療養所ニ着キマシタ 一行ハ二名ノ軍
 医將校ト衛生兵及英、米、濠、蘭人ヲ含ム約四百五十名ノ患者カラ成リ立ツテイタ 此
 ノ新ラシイ療養所ハ設備ニツイテハ非常ニ良カツタ、ソコハ患者デ浸雜シテイナカツタ
 コ、ニハ事務室、炊事場及病舎トシテ「A」ト「B」ノ大キナ二棟アリ A舎ハ一般患者
 用 B舎ハ辱染病舎用ノモノデアル、患者給与ハ半量デアル、ソシテ私ノ意見トシテハ
 ソレハ不適當ノ様デマツタ、然シ酒保カイチ早ク作ラレ患者ハ玉子、果物等ヲ買ツテ不
 一疋ノ給与量ヲ補フコトが出来タ、病氣ヲ治ス患者ハ労働スル者ト同シ量ノ栄養アル食物
 ヲ必要トスル、若シソウデナイトズレバ恢復ハ遅レルト云フノカ私ノ考ヘデス

氏名 F O W L E R
アイラ アイラ ホー
国籍 米
階級 陸軍大尉

銘々票番号 泰西 五四六

生年月日 一九百十年七月二十日 三十四才

西貢俘虜患者療養所ニ就テ

西貢俘虜收容所ノ「アメリカ」軍ノ責任者及ヒ將校トシテ私ハ患者療養所ヲ数回訪問ス
ルコトヲ許サレタ。私ノ最初ノ訪問ハ療養所尙設後ニ適面後テシタ。設備ハ非常ニ不潔
足テ給与モ藥物モ充分テハセカツタ。水浴及洗濯ノ設備モ無カツタ。ソノ病室ハ雨カ深
リソシテ責任者デアル日本ノ下士官ハ明カニ無關心デアル様ニ思ツタ。ソレハ此ノ療養
所取締リノ余令ヲ衛生兵ニ許シタ其ノ結果時ニハ働カネバナラヌ患者ノ回復期ヲ延マセ

數週尙後私ハ第二回目ノ訪問ヲシタ。療養所ノ設備ハ營々程改善サレテ居タ。患者ノ給
与ハ充分デハナカツタケレ共食料調理ノ様子ハ改善サレテキタ。赤十字カラノ藥物カ着
イタソレニハ「アチアリン」スルファミド等ガ入ツテ居タ。ニツ共前ノ收容所
ハ手ニ入ラナカツタ。非常ニ必要ナモノデス。水浴場及洗濯場ハ依ラレ其知ニハ非常ニ
水ガ何時デモ豊富テアル。責任者テアル日本軍ノ下士官ノ代ニ新シイ軍曹カ来タ。コノ
軍曹ハ近イ中ニ再ヒ丈夫ニナルコトカ出ル患者ニ対スル療養所トシテ非常ニ良イ療養
所ト作ルコトニ決心ヲ持ツ様ニ思ハタ。西貢ノ俘虜患者療養所ニ就テ私ノ意見ヲ一言ス
レハ全体トシテ私カ俘虜ニナツテカフ初メテ見タ最良ノ療養所テアルト思フ。療養所ノ
井ツ良イ点ハ次ノ点デアル。
療養所長ハ患者ニ與スル條件ヲ改善スルコトニ人情アリ又快力的デアルコト。前ノ療養
所ノ糞ニ混雜シテキナイコト。赤十字カラノ藥物ヲ手ニ入レルコトカ出ルタ。療養所ノ
監視兵ノ勤務勤作ニ就テハ療養所ハ非常ニウマク行ツテキル。取々ノ軍医將校ハ患者ヲ

九六
診断又ハ如何方ヲ担当スルコトヲ許サレテホル 患者ハ身体ヲ清潔ニ保ツコトガ出来ル石

缺ヲ支給サレ水ハ豊富デアル 洗濯ト寝具ヲ乾ス場所ハ広カッタ 酒保デハ患者ハ「夕

バコシ 数種ノ果物及ヒ食物ヲ買フコトカ出来ル 患者ハ完全ニ回復スル迄迄ホノ休養

ヲ与ヘラレマス

氏名
ダイケル トーマス

階級
軍曹

年令
三十一才

銘々原番号
参VI 九三二

国籍
蘭

生年月日
西歴千九百十三年三月三十日

日本陸軍病院入院月日
千九百四十四年五月二十一日

九七

日本陸軍病院退院月日
千九百四十四年八月二十六日

入院理由
赤痢

西貢陸軍病院入院手記

千七百四十四年五月二十一日ニ私ハ赤痢ノタメ私ノ戦友スベイ及今一人ノ戦友ト三名一

緒ニ入院ヲ許可サレタ 我々ハ夕方出發シ日本ノ看護婦ニ迎ヘラレソシテ我々ハ病室ニ

連レテ行カレマシタ 我々ノ「ベット」ハ非常ニ良カッタ ソシテ多クノ菜ヲ受ケマシ

タ 次ノ日親切ナ日本軍医カ来テ我々ヲ診断シテ取レマシタ 三週同敷赤痢ハ全ク癒リ

マシタガ 又「マラリヤ」ガ再発シマシタ 私ハソレカラ更ニニヶ月病院ニ居リマシタ

ガ其ノ後退院シテ患者療養所ニ歸リマシタ 我々ハ日本陸軍病院デハ上等ノ給与ヲ受ケ

タ 煙草ヤセイ菓子類ニ賞ヒマシタ 我々ハ日本軍ト同様ノ取扱ヲ受ケタト云フ事ヲ私

ハ痛切ニ感ジマシタ

私ノ戦友ガ退院シタ時ニナツテ初メテ私ハ退 ヲシマシタソレハ私ハ全然仕草モ感イシ

九七